本文

○省令

遞信省令第五十一號

明治三十三年四月遞信省令第十六號造船規程第二編中左ノ通改正シ明治四十一年一月一日ヨリ施行ス

明治四十年十二月十日　遞信大臣　山縣伊三郎

第二條　汽罐ノ製造ニ供用スル鋼材ニハ左ノ試驗ヲ執行スヘシ

一　抗張試驗　胴板用及ヒ支梁用鋼板、山形材其ノ他ノ形材ハ一平方吋ノ抗張力二十七噸以上三十二噸以下ニシテ其ノ於テ厚八分ノ三吋未滿ナルトキハ百分ノ二十以上、其ノ他ノ諸鋼板ハ一平方吋ノ抗張力二十五噸以上三十噸以下ニシテ其ノ伸張ノ割合ハ八吋ノ長ニ於テ厚八分ノ三吋未滿ナルトキハ百分ノ二十以上、厚八分ノ三吋以上ナルトキハ百分ノ二十三以上ナルヲ要ス

支柱用鋼材ノ一平方吋ノ抗張力ハ二十七噸以上三十二噸以下、螺旋支柱用及ヒ鉸釘用鋼材ノ一平方吋ノ抗張力ハ二十五噸以上三十噸以下ニシテ其ノ伸張ノ割合ハ試驗材ノ徑ノ八倍ノ長ニ於テ支柱用鋼材ハ百分ノ二十以上、螺旋支柱用鋼材ハ百分ノ二十三以上、鉸釘用鋼材ハ百分ノ二十五以上ナルヲ要ス

製造ニ供シタル鋼材ニ前項ノ試驗ヲ執行セサル鉸釘ニ付テハ該鉸釘ヲ以テ有效ノ長カ試驗材ノ徑ノ二倍半ヲ有スル試驗材ヲ製作シ抗張試驗ヲ行フヘシ此ノ場合ニ於テ一平方吋ノ抗張力ハ二十五噸以上三十噸以下ニシテ其ノ截面積ノ縮小ノ割合ハ百分ノ六十以上ナルヲ要ス

二　屈曲試驗　鋼板、支柱用及ヒ螺旋支柱用鋼材ハ試驗材ヲ熱セサルモノ及ヒ之ヲ血紅色ニ熱シ華氏八十度ヲ超エサル水中ニテ冷却シタルモノ共ニ試驗材ノ厚又ハ徑ノ三倍ヲ超エサル內徑ヲ以テ百八十度屈曲シ裂疵ヲ生セサルヲ要ス

鉸釘ハ之ヲ熱セシテ釘身ヲ百八十度屈曲シ相接著セシメ屈曲ノ外部ニ裂疵ヲ生セサルヲ要ス

三　鍛錬試驗　鉸釘ハ之ヲ熱シ釘頭ヲ釘徑ノ二倍半迄平扁ニ打壓シ裂疵ヲ生セサルヲ要ス

第五條　塊鋼ハ左ノ試驗ヲ執行スヘシ但試驗材ハ之ヲ鍛錬スルコトヲ得

一　抗張試驗　一平方吋ノ抗張力ハ二十七噸以上三十二噸以下ニシテ其ノ伸張ノ割合ハ二吋ノ長ニ於テ百分ノ三十以上ナルヲ要ス

二　屈曲試驗　一吋角ノ試驗材ヲ作リ一吋ヲ超エサル內徑ヲ以テ百八十度屈曲シ裂疵ヲ生セサルヲ要ス

第六條　鐵板及ヒ鋼板ノ試驗材ノ厚ハ汽罐ノ製造ニ供用スル板ノ厚ト同一ナルヲ要シ其ノ幅ハ試驗材ノ厚八分ノ三吋未滿ナルトキハ二吋二分ノ一ヲ、八分ノ三吋以上八分ノ七吋以下ナルトキハ二吋ヲ、八分ノ七吋ヲ超ユルトキハ一吋二分ノ一ヲ超エサルヲ要ス

支柱用、螺旋支柱用及ヒ鉸釘用材料ノ試驗材ノ徑ハ二分ノ一吋以上、塊鋼ノ試驗材ノ徑ハ四分ノ三吋以下ナルヲ要ス

厚十六分ノ三吋ヲ超エサル鐵材及ヒ鋼材ニハ抗張試驗ヲ省略スルコトヲ得

第七條　本章第一條及ヒ第二條ノ各試驗ハ同一ノ部分ニ供用スル材料ニシテ其ノ種類及ヒ厚又ハ徑同一ナルトキハ鐵板、鋼板、支柱、螺旋支柱及ヒ鉸釘用材料ニ在リテハ各種ヨリ一箇、鉸釘ニ在リテハ五百箇未滿毎ニ一箇、本章第三條ノ試驗ハ各鎔解ヨリ一箇、本章第五條ノ試驗ハ各塊ヨリ一箇ヲ採リ之ヲ執行シ檢查官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ更ニ二箇迄ニ增シ適否ヲ檢定スヘシ

前項ノ試驗材カ試驗ニ合格セサルトキハ更ニ二箇ノ試驗材ヲ採リ其ノ適否ヲ檢定シ二箇ノ試驗材カ共ニ試驗ニ合格スルトキハ之ヲ合格トス

第三章

第一條第二號中「低壓汽筒ハ最大汽壓ヲ」「低壓汽筒ハ最大汽壓ニ〇、八ヲ乘シタルモノニ改ム

同條第二項ノ次ニ左ノ四項ヲ加フ

「タービン」汽機ノ外筐ハ最長質材料ヲ以テ製造シ粗削ヲ爲シタル後左ノ水壓力ヲ以テ試驗ヲ執行スヘシ

一　「パーソンス式」タービン汽機ノ高壓外筐ニ於テハ其ノ外筐一箇ヨリ成ルトキハ最大汽壓ノ一倍三分ノ一、二箇以上ヨリ成ルトキハ前部ノ外筐ハ最大汽壓ノ一倍三分ノ一、後部ノ外筐ハ最大汽壓ノ三分ノ二

「パーソンス式」タービン汽機ノ低壓外筐ニ於テハ前部ノ外筐ハ每平方吋四十五磅後部ノ外筐ハ每平方吋三十磅

二　「パーソンス式」タービン汽機ノ後退外筐ニ於テハ最大汽壓

第7336号　本文

第7336号 本文

四 「カーチス」式「タービン」汽機ノ外筐ニ於テハ第一膨脹階段ハ初壓力ノ一倍二分ノ一、以下各階段毎ニ二十五磅ヲ減ス但毎平方吋三十磅ヲ下ルコトヲ得ス

「パーソンス」式「タービン」汽機ノ高壓外筐ニ於ケル水壓力ハ高壓「タービン」汽機ニ於テ減少シタル汽壓ヲ使用シ且該汽機ノ前部配汽室又ハ之ニ相當スル場所ニ適當ナル逃出瓣ヲ備フルモノニ在リテハ前項第一號ノ最大汽壓ニ代フルニ初壓力ヲ以テスルコトヲ得又汽機ノ初壓力毎平方吋百六十磅以上ナルトキハ前項第二號ニ定ムル前部外筐ノ水壓力ヲ相當ニ増加スヘシ

「タービン」汽機ニ附屬スル汽管、瓣、嘴子等ハ其ノ附屬スル外筐ト同一ノ水壓試驗ヲ執行スヘシ

「パーソンス」式「タービン」汽機ノ高壓外筐ト低壓外筐トノ間ニアル汽管、瓣及ヒ嘴子ハ低壓前部外筐ト同一ノ水壓試驗ヲ執行スヘシ

第二條ニ左ノ一項ヲ加フ

「パーソンス」式「タービン」汽機ニ於テハ高壓「タービン」汽機ノ後端又ハ之ニ相當スル場所及ヒ低壓「タービン」汽機ノ前部配汽室又ハ之ニ相當スル場所ニ完全ナル逃出瓣ヲ備フヘシ

第十五條中「注射冷汽及ヒ」ヲ削ル

第二十五條中「吸水口ヲ備フヘシ」ヲ「吸水口ヲ備ヘ該喞筒ニハ正給水喞筒ニ屬スルモノノ外別ニ給水管及ヒ制限瓣ヲ備フヘシ」ニ改ム

第二十六條 前條ノ喞筒ノ外尚蒸汽喞筒一箇ヲ備ヘ各區劃室ヨリ淦水ヲ取リ之ヲ船外ニ排出シ且海水ヲ冷汽器及ヒ甲板上ニ送リ得ヘキ樣裝置スヘシ但獨立ノ循環喞筒二箇以上ヲ備ヘ其ノ吐出口ニ於テ互ニ聯結スル裝置アルトキハ冷汽器ニ送水スル裝置ヲ爲ササルコトヲ得

第二十九條ニ左ノ但書ヲ加フ

但曲拐ヲ有セサル獨立直働給水喞筒ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第三十條中「及ヒ錬鋼」ヲ削ル

第四章

第六條中「鋲釘ノ徑」ヲ「鋲釘孔ノ徑」ニ改メ同條ニ左ノ但書ヲ加フ

但平板ニ於テ累接サルヘキ板ノ厚ニ差異アル場合ニハ鋲釘孔ノ徑ハ其ノ平均ノ厚ヨリ小ナルヘカラス

第七條表中「累接ニシテ」ヲ「累接又ハ單覆板銜接ニシテ」ニ改ム

第八條中「Cハ」ノ下「累接ナルトキ」ヲ「累接又ハ單覆板銜接ナルトキ」ニ、「二一〇」ヲ「二〇七、七」ニ、「一九、二五」ヲ「二〇」ニ、「一八、五」ヲ「一九、二一」ニ改メ但書中「二十六噸」ヲ「二十七噸」ニ改ム

第十條第二號ヲ左ノ如ク改ム

鋼製支柱 最小ノ徑一吋二分ノ一ヲ超エサル螺旋支柱ノ内力ハ一平方吋ニ付八千磅、最小ノ徑一吋二分ノ一以上ノ螺旋支柱ノ内力ハ一平方吋ニ付九千磅、最小ノ徑一吋二分ノ一ヲ超エサル螺旋支柱ニアラサル支柱ノ内力ハ一平方吋ニ付九千磅、最小ノ徑一吋二分ノ一以上ノ螺旋支柱ニアラサル支柱ノ内力ハ一平方吋ニ付一萬磅

同條第四號中「二十六噸」ヲ「二十七噸」ニ改ム

第十六條表中「六、六〇〇」ヲ「六、八五〇」ニ、「九、九〇〇」ヲ「一〇、二八〇」ニ、「一一、〇〇〇」ヲ「一一、四二〇」ニ、「一一、五五〇」ヲ「一一、九六〇」ニ、「一一、八八〇」ヲ「一二、三四〇」ニ改メCノ下ニ左ノ但書ヲ加フ

但鋼製支梁ニ在リテハ一平方吋ノ最小抗張力二十七噸ヲ超ユルトキハ其ノ割合ヲ以テ定數ヲ増加スルコトヲ得

第十八條第一項中「デイトン」式」ノ下ニ「「リーズ、フォージ」社「バルブ」式、「ベアドモア」式」ヲ加フ

同條第二項中「鋼製火爐」ノ下ニ「及ヒ突出圈ノ距離八吋又ハ九吋ナル「プラオン」式火爐」ヲ加フ

同條第三項中Dノ下ヲ左ノ如ク改ム

ハ「フォックス」式「デイトン」式、「モリソン」式、「ベアドモア」式及ヒ螺形火爐ナルトキハ皺形ノ外邊ノ徑、肋形「プラオン」式及ヒ「リーズ、フォージ」社「バルブ」式火爐ナルトキハ最小部外邊ノ徑(吋ニテ)

第十九條 汽罐ハ左ノ水壓力ヲ以テ試驗ヲ執行スヘシ

一 筩形汽罐ハ毎平方吋ノ最大汽壓九十磅以上ナルトキハ之ニ九十磅ヲ加ヘタルモノ、九十磅未滿ナルトキハ其ノ二倍

二 水管汽罐ハ最大汽壓ノ一倍半ニ十五磅ヲ加ヘタルモノ

第五章

第一條第一項中「瓣ノ全面積」ヲ「瓣及ヒ排汽管ノ全面積」ニ改ム

第四條第一項ニ左ノ但書ヲ加ヘ第二項ヲ削ル

但汽罐室ト汽機室トノ間ニ支水隔壁ヲ有スルカ又ハ汽罐室ノ長殊ニ大ナルモノニ在リテハ揚瓣裝置ヲ汽罐室ニ設クルコトヲ得

附則

本令施行前船籍ニ登錄シタル船舶ニシテ舊規程ニ合格スト認メラレタルモノハ本令施行後ト雖モ該規程ニ依ルコトヲ得

本令施行前造船認許證書ノ交付ヲ受ケ又ハ明治四十一年四月三十日迄ニ造船認許證書ノ交付ヲ申請スル船舶ハ明治三十三年四月遞信省令第十六號造船規程第二編ノ規定ニ依ルコトヲ得但「タービン」汽機及ヒ水管汽罐ノ水壓試驗ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

遞信省令第五十二號

明治三十三年十二月遞信省令第八十八號船舶檢査規程中左ノ通改正ス

明治四十年十二月十日　遞信大臣　山縣伊三郎

(二)

第八條第六項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

「タービン」汽機ニ付テハ檢査官吏ノ適當ト認ムル所ニ依リ其ノ構造ヲ査覈シ第二項第三號ニ依リ特別檢査ノ期間ヲ定ムヘシ

第九十六條第一號中「滑瓣」ノ下ニ「、「タービン」汽機ノ外筐上半」ヲ、「淦水喞筒」ノ下ニ「、注油喞筒」ヲ加フ

第九十七條第四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加ヘ第五號ヲ第六號トス

五 「タービン」汽機ノ「ロートル」ヲ取出シ置クコト

第九十九條中第一號乃至第三號ヲ左ノ如ク改ム

一 汽筩、「タービン」汽機ノ外筐及ヒ「ホヰール」、冷汽器、喞筒、船尾管等ヲ鑄造シタルトキ竝ニ仕上ヲ了リタルトキ

二 諸軸、諸鋲及ヒ「タービン」汽機ノ「ロートル」ノ粗削ヲ爲シタルトキ

三 諸軸及ヒ汽筩ノ中心線ヲ定ムルトキ竝ニ「タービン」汽機ノ「ロートル」ノ組立ヲ了リタルトキ

第百一條ノ二 船舶檢査法施行細則第四條第二項ニ依リ船舶ノ製造中其ノ特別檢査ヲ執行スルトキハ「タービン」汽機ノ外筐ハ粗削ヲ爲シタル後左ノ水壓力ヲ以テ試驗ヲ執行スヘシ

一 「パーソンス」式「タービン」汽機ノ高壓外筐ニ於テハ其ノ外筐一箇ヨリ成ルトキハ最大汽壓ノ一倍三分ノ一、二箇以上ヨリ成ルトキハ前部ノ外筐ハ最大汽壓ノ一倍三分ノ一、後部ノ外筐ハ最大汽壓ノ三分ノ二

二 「パーソンス」式「タービン」汽機ノ低壓外筐ニ於テハ前部ノ外筐ハ毎平方吋四十五磅、後部ノ外筐ハ毎平方吋三十磅

三 「パーソンス」式「タービン」汽機ノ後退外筐ニ於テハ最大汽壓

四 「カーチス」式「タービン」汽機ノ外筐ニ於テハ第一膨脹階段ハ初壓力ノ一倍二分ノ一、以下各階段毎ニ二十五磅ヲ減ス但毎平方吋三十磅ヲ下ルコトヲ得ス

「パーソンス」式「タービン」汽機ノ高壓外筐ニ於ケル水壓力ハ高壓「タービン」汽機ニ於テ減少シタル汽壓ヲ使用シ且該汽機ノ前部配汽室又ハ之ニ相當スル場所ニ適當ナル逃出瓣ヲ備フルモノニ在リテハ前項第一號ノ最大汽壓ニ代フルニ初壓力ヲ以テスルコトヲ得又汽機ノ初壓力毎平方吋百六十磅以上ナルトキハ前項第二號ニ定ムル前部外筐ノ水壓力ヲ相當ニ増加スヘシ

「タービン」汽機ニ附屬スル汽管、瓣、嘴子等ハ其ノ附屬スル外筐ト同一ノ水壓試驗ヲ執行スヘシ

「パーソンス」式「タービン」汽機ノ高壓外筐ト低壓外筐トノ間ニアル汽管、瓣及ヒ嘴子ハ低壓前部外筐ト同一ノ水壓試驗ヲ執行スヘシ

第百十一條第一項ヲ左ノ如ク改ム

汽罐ハ特別檢査ニ於テ左ノ水壓力ヲ以テ試驗ヲ執行スヘシ

一 新ニ使用スル筩形汽罐ハ毎平方吋ノ最大汽壓九十磅以上ナルトキハ之ニ九十磅ヲ加ヘタルモノ、九十磅未滿ナルトキハ其ノ二倍

二 既ニ使用シタル筩形汽罐ハ毎平方吋ノ最大汽壓九十磅以上ナルトキハ之ニ四十五磅ヲ加ヘタルモノ、九十磅未滿ナルトキハ其ノ一倍半

三 新ニ使用スル水管汽罐ハ最大汽壓ノ一倍半ニ十五磅ヲ加ヘタルモノ

四 既ニ使用シタル水管汽罐ハ最大汽壓ノ一倍四分ノ一ニ十五磅ヲ加ヘタルモノ

第百十六條ニ左ノ但書ヲ加フ

但曲拐ヲ有セサル獨立直働給水喞筒ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第百四十條ノ二 減壓瓣ヲ以テ減少シタル汽壓ヲ使用スル汽機ニ在リテハ減壓瓣ノ次ニ相當ノ大サヲ有スル逃出瓣ヲ備フヘシ

第百四十條ノ三 「パーソンス」式「タービン」汽機ニ於テハ高壓「タービン」汽機ノ後端又ハ之ニ相當スル場所及ヒ低壓「タービン」汽機ノ前部配汽室又ハ之ニ相當スル場所ニ完全ナル逃出瓣ヲ備フヘシ

第百四十一條ノ二中「第百四十條」ヲ「第百四十條ノ三」ニ改ム

第八號表中「滑瓣鋲」ノ次ニ左ノ欄ヲ

隔心鋲	一組			

「接續鋲上下ノ黄銅」ノ次ニ左ノ欄ヲ

主軸受黄銅	各軸受ニ付一組	同上		「タービン」汽機ナルトキ

「主軸受螺釘及ヒ母螺」摘要欄ニ「「タービン」汽機ナルトキハ此ノ限ニ在ラス」ヲ、「循環喞筒鋲」摘要欄ニ「但排氣喞筒鋲ト同形ニシテ相轉用シ得ルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス」ヲ、「制限瓣及ヒ座」摘要欄ニ「汽罐ノ數五箇以上ナルトキハ更ニ汽罐四箇又ハ其ノ未滿毎ニ一組ノ割合ヲ以テ増備スヘシ」ヲ加ヘ「火床架」摘要欄ヲ「汽罐ノ數五箇以上ナルトキハ汽罐四箇分ニ止ム 又火床架ノ數ハ四箇ヲ最少ノ限度トス」ニ改メ「焔管」ノ欄ヲ削リ同表備考ニ左ノ一項ヲ加フ

隔心鋲ハ明治四十一年七月一日以前ニ製造シタル汽機ニ在リテハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ

附則

本令ハ明治四十一年一月一日ヨリ施行ス但第八條、第九十六條、第九十七條及ヒ第九十九條ノ改正ハ發布ノ日ヨリ施行ス

(三)

遞信省令第五十三號

明治三十三年十二月遞信省令第九十一號機關檢査規程中左ノ通改正シ明治四十一年一月一日ヨリ施行ス

明治四十年十二月十日　遞信大臣　山縣伊三郎

第二章

第二條 汽罐ノ製造ニ供用スル鋼材ニハ左ノ試驗ヲ執行スヘシ

一 抗張試驗 胴板用鋼板、支梁用鋼板及ヒ支柱用鋼材ハ一平方吋ノ抗張力二十六噸以上三十二噸以下ニシテ其ノ伸張ノ割合ハ鋼板ニ在リテハ

二　試驗ハ何レモ百分ノ二十以上ノ點數ヲ得タル者ニ非サレハ及第ト爲サス

三　願書提出方

願書ハ試驗地ノ地方廳ニ提出スヘシ

試驗ヲ受ケントスル地ノ外ニ試驗地ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ其ノ事由ヲ記載スヘシ

願書提出後ハ受驗地ヲ變更スルコトヲ許サス

○訓令

陸軍省訓令第五號

明治四十年度常備兵徵集ノ期日左記ノ通相定ム

陸軍大臣　子爵寺内正毅

明治四十年十二月十日

○告示

大藏省告示第一百六號

製造煙草定價左ノ通相定ム

明治四十年十二月十日　大藏大臣　法學博士男爵阪谷芳郎

種類	製造所名	稱號	價額區分	定價
煙草 Cigarettes	Stefanau, Egypt	Imperial(Gold tipped)	百本入	三圓五十錢
同	do	Imperial(Cork tipped)	百本入	三圓五十錢
同	Sciaravante, Egypt	Togo	百本入	三圓〇〇
同	do	Togo	百本入	三圓〇〇

大藏省告示第一百七號

仙臺煙草賣捌所ヲ明治四十年十二月十五日宮城縣栗原郡築館町字町屋敷三十二番地ニ移ス

明治四十年十二月十日　大藏大臣　法學博士男爵阪谷芳郎

文部省告示第二百八十六號

明治四十一年第一回定期檢定施行ノ地及期日等左ノ通定ム

明治四十年十二月十日　文部大臣　男爵牧野伸顯

一　試驗施行ノ地

試驗前期試驗地方廳所在地	後期試驗地試驗場	專攻學科試驗地試驗場
同上	東京高等師範學校	東京高等師範學校

二　試驗期日

明治四十一年四月六日ヨリ開始ス

學科試驗ノ日割及實地試驗ヲ受クヘキ者ノ氏名及受驗日時ハ委員長之ヲ公告ス

三　願書提出方

試驗ヲ受ケントスル地ノ外實地試驗ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ學說試驗ヲ受ケントスル地ノ外ニ記載シ學說試驗ヲ受ケントスル地ノ地方廳ニ差出スヘシ

願書提出後ハ受驗地ヲ變更スルコトヲ許サス

文部省告示第二百八十八號

右ハ勳四等第十三條及文官任用令第三條第三號ニ依リ認定ス仍テ此ノ段公告ス

明治四十年十二月十日　文部大臣　男爵牧野伸顯

逓信省告示第八百九號

郵便局所ニ於テ外國爲替金ノ換算ニ適用スヘキ外國貨換算割合左ノ如シ

明治四十年十二月十日　逓信大臣　山縣伊三郎

國名	貨幣	單位	換算割合
英吉利	一ペンス銅貨	一圓ニ付	四十八ペンス
	一シリング銀貨	一圓ニ付	四シリング十ペンス
	一ソヴリン金貨	一圓ニ付	〇・八ソヴリン
佛蘭西	一フランク銀貨	一圓ニ付	五フラン二十五サンチーム
米利堅	一ダラー銀貨	一圓ニ付	一ダラー
	一セント銅貨	一圓ニ付	百セント
和蘭	一ギルダー銀貨	一圓ニ付	二ギルダー五十セント

逓信省告示第八百十號

本月十一日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス

明治四十年十二月十日　逓信大臣　山縣伊三郎

局名	所在地	位置
京都郵便局	京都	京都ノ北
岡崎郵便局	岡崎小路通仁王門上ル村	同上
福知山郵便局	福知山日出村	京都ノ北

逓信省告示第八百十一號

本月十一日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス但シ電報配達事務ヲ取扱ハス

明治四十年十二月十日　逓信大臣　山縣伊三郎

局名	所在地	位置
本郷小石川區	本郷西片町	東京市ノ北
小石川區	小石川區音羽町	同上
四谷區	四谷區鮫河橋町	同上
牛込區	牛込區神樂坂上町	同上
麹町區	麹町區三番町	同上
赤坂區	赤坂區青山南町	同上
芝區	芝區三田四國町	同上
麻布區	麻布區三河臺町	同上
日本橋區	日本橋區通三丁目	同上
京橋區	京橋區南傳馬町	同上
神田區	神田區表神保町	同上
下谷區	下谷區上野櫻木町	同上
淺草區	淺草區茅町	同上
本所區	本所區橫川町	同上
深川區	深川區佐賀町	同上
小石川區	小石川區表町	同上
本鄉區	本鄉區西片町	同上
日本橋區	日本橋區通三丁目	同上
京橋區	京橋區南傳馬町	同上
神田區	神田區表神保町	同上
下谷區	下谷區上野櫻木町	同上
淺草區	淺草區茅町	同上
本所區	本所區橫川町	同上
深川區	深川區佐賀町	同上

逓信省告示第八百十二號

明治三十九年告示第二百六十四號加入區域外逓信區域及電話料電報料左ノ通逓信大臣ノ定ムル所ニ依リ本月十一日ヨリ實施ス

明治四十年十二月十日　逓信大臣　山縣伊三郎

第7336号　本文

○叙任及辞令

○明治四十年十一月九日

（省略）

（省略）

第7336号　本文

補重砲兵第二旅團副官　陸軍砲兵大尉　山根信一郎
陸軍野戰砲兵射擊學校附被免　陸軍砲兵大尉　三戸誠一
補野砲兵第五聯隊附　陸軍砲兵大尉　三戸誠一
補舞鶴重砲兵大隊附　陸軍砲兵中尉　田村善三
第十五師團經理部附被免　陸軍一等主計　鈴木郡一郎
補第十五師團經理部部員　陸軍一等主計　鈴木郡一郎
免本職習志野臨時衞戍病院附被仰付　步兵第五十七聯隊附陸軍三等主計　渡邊熊太
第十六師團經理部附被免濱寺臨時衞戍病院附被仰付　陸軍三等主計　齋藤鉄吉
第八師團經理部附被免　陸軍二等主計　末松虎彥
補第八師團經理部部員　陸軍二等主計　末松虎彥
第十二師團經理部附被免　陸軍三等主計　椎屋一彥
補第十二師團經理部部員　陸軍三等主計　椎屋一彥
免本職竝兼職補名古屋陸軍兵器支廠附　第三師團經理部部員兼臨時陸軍建築部名古屋支部附陸軍三等主計　岡崎信夫
免本職補步兵第十四聯隊附　步兵第四十七聯隊附陸軍三等軍醫正　松本繁正
免本職補步兵第四十七聯隊附　步兵第十四聯隊附陸軍三等軍醫正　櫻井龍造
免本職補輜重兵第五大隊附　騎兵第十一聯隊附陸軍三等軍醫　白形淺瀨
免本職竝兼職補騎兵第十一聯隊附　陸軍戸山學校附兼同校教官陸軍三等軍醫　伊島正二
免本職補天津駐屯步兵隊附　步兵第五十四聯隊附陸軍三等軍醫　木下福磨
步兵第八聯隊附被免　陸軍三等軍醫　岡田國藏
補步兵第四十一聯隊附　陸軍三等軍醫　岡田國藏
免本職補陸軍士官學校附兼同校教官　步兵第四十一聯隊附陸軍二等軍醫　圓山廣俊
免本職補步兵第二十四聯隊附　步兵第十七聯隊附陸軍三等軍醫　朝長昌雄
補步兵第十七聯隊附　陸軍二等軍醫　鈴木宇宙
免本職補高崎衞戍病院附　名古屋衞戍病院附陸軍三等藥劑官　稻崎龍助
補名古屋衞戍病院附　陸軍三等藥劑官　飯田隼埜
免本職竝兼職補國府臺衞戍病院附　野砲兵第十八聯隊附兼下志津衞戍病院長陸軍一等軍醫　山田令助
野砲兵第一聯隊附陸軍一等軍醫　守屋眞朋
免本職補野砲兵第十八聯隊附兼下志津衞戍病院長
近衞步兵第二聯隊附陸軍二等軍醫　大槻弌也
免本職野砲兵第一聯隊附一等軍醫職務心得被仰付
濱寺臨時衞戍病院附被免　陸軍三等軍醫　福井雄太郎
補步兵第六十二聯隊附　陸軍三等軍醫　福井雄太郎
濱寺臨時衞戍病院附被仰付　陸軍二等軍醫　中村千代之助
免本職補近衞步兵第二聯隊附　步兵第六十聯隊附陸軍三等軍醫　松井篤二
免本職竝兼職補東京第一衞戍病院附　臺北衞戍病院附兼臺灣總督府陸軍軍醫部部員陸軍一等藥劑官　高松米次郎
高崎衞戍病院附陸軍一等藥劑官　民野鎌太郎
免本職補臺北衞戍病院附兼臺灣總督府陸軍軍醫部部員
休職被仰付（以上十二月九日　同）　近衞步兵第一聯隊附陸軍步兵中尉　小林長倍

衞藤周禮
芳賀竹四郎
原田綱橋
（各通）
海軍少軍醫候補生ヲ命ス

海軍少軍醫候補生　衞藤周禮
海軍少軍醫候補生　芳賀竹四郎
海軍少軍醫候補生　原田綱橋
（各通）
海軍軍醫學校練習學生ヲ命ス（以上十二月七日　海軍省）

鑛山監督署事務官　江藤玄三
八級俸下賜
鑛山監督署事務官　江藤玄三
東京鑛山監督署在勤ヲ命ス（以上十二月六日　農商務省）
鑛山監督署技師　吉村萬治
東京鑛山監督署在勤ヲ命ス（十二月九日　同）
十級本俸下賜（十二月七日　群馬縣）　群馬縣立前橋中學校教諭　長澤開右衞門

正誤（括弧內右方ハ年月日左方ハ頁數段數ナリ）

一〇〇〇一五〇　正　誤
一五　宮崎　全晃（四〇、一二、九 三四）

昨九日本欄一五六頁上段城與三郎ノ官名海軍局技師ハ海事局技師ノ誤植

○宮廷錄事

○清國皇族御參內竝御陪食　清國溥倫貝勒殿下昨九日午前十一時五十分御參內ニ付キ途中儀仗トシテ近衞騎兵一小隊及前驅後衞ノタメ警部四騎ヲ附セラレ殿下御乘用ノ馬車ニハ接伴員伊藤式部次長陪乘御車寄階下ニハ式部官階上ニハ戸田式部長出迎ヘ御誘引　天皇　皇后兩陛下鳳凰ノ間ニ於テ殿下ニ御對面引續キ豐明殿ニ成ラセラレ御會食博恭王同妃經子兩殿下ヲ召サセラレ清國特命全權公使李家駒、公使館參贊官盧永銘、同張煜全、溥倫貝勒殿下ノ隨員外務部郎中李清芬、外務部主事曹汝霖、江蘇候補道馮國勳、知洲用分省試用州同唐國安、民政部候補主事毓彭、高倉典侍、北島權掌侍、香川權掌侍取扱、德大寺侍從長、田中宮內大臣、林外務大臣、岡澤侍從武官長、香川皇后宮大夫、花房宮內次官、戸田式部長、丹羽式部官、山內外事課長、伊藤式部次長、青木陸軍少將、式部主事子爵稻薬正繩、式部官恩地轍ヘ御陪食仰付ケラレ　右畢テ溥倫貝勒殿下ハ午後一時三十分御退出相成リタリ

○皇族發著　載仁親王殿下ハ長崎、鹿兒島、宮崎三縣下ヘ御旅行ノ處一昨八日御歸京アラセラレタリ

○彙報

○官廳事項

○休職滿期　休職德島縣立脇町中學校教諭池野傳吉ハ去月二十六日、同宮城縣立農學校教諭藤江德吉ハ本月七日孰モ休職滿期ト爲レリ

○官吏發著　函館稅關在勤稅關鑑定官補楢林英實ハ一昨八日上京セリ
木村第十八師團長ハ本月五日著任◉井上第四師團長ハ教育視察ノタメ敦賀、大津地方ニ向ヒ同六日出發
◉曩ニ千葉縣千葉地方ヘ出張ノ落合交通兵旅團長ハ同七日歸著セリ
學術上取調ノタメ長崎縣下ヘ出張ヲ命セラレタル東京帝國大學工科大學助教授竹村勘忢ハ本月五日出發◉曩ニ上京ノ中川仙臺高等工業學校長ハ一昨八日出發歸任セリ

判決

○特許局審決　前田道方ヨリ長崎和清ニ對シ特許第二〇〇九號醬油釀造法ノ特許權利確認ヲ求ムルタメ審判請求事件ニ付キ本月五日特許局ニ於テ左ノ如ク審決セリ

第一二二九號

審決書

東京市小石川區表町百二番地
請求人　前田道方
同市京橋區銀座一丁目十九番地
右代理人　特許代理業者　森省吉
神奈川縣高座郡寒川村大字倉見二千四百八十六番地
被請求人　長崎和清
東京市京橋區木挽町九丁目七番地
右代理人　特許代理業者　稻本繁太郎

右前田道方ヨリ長崎和清ニ對シ特許第二〇〇九號醬油釀造法ノ特許權利確認ヲ求ムル爲メ審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要領ハ被請求人カ實施セル醬油釀造法ハ特許第二〇〇九號醬油釀造法ト抵著ス審判費用ハ被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ請求人カ製造使用ノ權利ヲ分割セラレタル特許第二〇〇九號ハ其ノ明細書ニ記載スルカ如キ裝置ニ依リ極メテ速カニ釀造スルノ目的ニ於テ華氏百十五度乃至百二十五度ノ溫度ヲ保タシメタル溫室ニ桶又ハ他ノ容器ヲ收メ之ニ醬油原料ヲ容レテ醬油ヲ釀造スル方法ニ特許ノ保護ヲ得タルモノナリ然ルニ被請求人ハ前記特許ノ要部ト其ノ要部ノ抵著セル前記ノ設備ト方法トヲ實施採用セルヲ以テ請求要旨ノ如キ審決ヲ求ムルモノナリ被請求人ノ所謂醬油菌ノ蕃殖ニ適當ナル華氏七十七度乃至八十六度ノ溫度トハ無論諸味即桶ノ內容物ノ溫度ニシテ決シテ桶外空氣ノ溫度ヲ意味スルニアラサルヘシ又桶外ニ設ケタル加熱裝置ヲ以テハ桶ヲ納メタル密閉シタル溫室ハ常ニ之ヲ少クモ華氏百十五度以上百二十五度迄ニ熱セサレハ諸味ノ溫度ヲ華氏七八十度即被請求人ノ所謂醬油菌蕃殖ニ適合セル溫度トナスヲ得サルナリ換言スレハ被請求人ノ陳述スルカ如クニ桶ノ外部ヲ華氏七八十度ニ維持シ尙諸味ヲシテ同一溫度ニ達セシムルコトハ特許第二〇〇九號ノ構造及被請求人ノ採用セル特許第二〇〇九號ト同一ノ構造ヲ以テハ夏季以外ニアッテ到底不可能ナルカ故ニ被請求人カ桶內諸味ニ華氏七八十度ノ溫度ヲ附與スト云フハ取リモ直サス桶ノ外即溫室ヲ華氏百十五度乃至百二十五度ニ熱スト云フニ歸著ス而シテ請求人ノ特許第二〇〇九號請求範圍ハ溫室即桶ノ外部ヲ華氏百十五度百二十五度ニ熱ストノミ記載シアレトモ其ノ結果桶內ノ諸味ニ華氏七八十度ノ溫度ヲ保タシムルヲ得ルコトハ事實ニ於テ甲第一號乃至同第三號證カ立證セルカ如ク明白ナリ故ニ被請求人ノ釀造法ニ於テ桶內諸味ノ溫度ヲ華氏七八十度ニ維持スルコトハ即請求人ノ特許權利即桶ノ外ヲ華氏百十五度乃至百二十五度ニ維持スル特許範圍ニ抵著スト云フニ在リテ其ノ申立ヲ確ムル爲甲第一乃至第三號證ヲ提出セリ

被請求人答辯ノ要領ハ請求人ノ申立相立タスト審決相成度其ノ理由ハ請求人カ分權ヲ有セルト稱スル本件特許第二〇〇九號ハ極メテ速カニ釀造スル目的ヲ以テ華氏百十五度乃至百二十五度ノ溫度ヲ保タシメタル溫室ニ桶又ハ他ノ容器ヲ收メ之ニ醬油原料ヲ容レテ醬油ヲ釀造スル方法ナル範圍ニ限リ特許權利ヲ有スルモノナリ然ルニ被請求人ノ實施セル醬油釀造法ハ蒸氣管ヲ利用シテ諸味桶ノ外底部ニ迂回セシメ以テ醬油菌ノ蕃殖ニ最モ適當ナル華氏七十七度乃至八十六度ノ溫度ヲ付與スルモノニシテ該溫度ハ主トシテ冬期ニ利用シ夏期ハ稍々僅カニ梅雨ノ候濕氣ヲ乾燥シテ不正黴菌ノ發生ヲ防クニ供用スルニ過キサルモノナルヲ以テ華氏七十七度乃至八十六度ヲ限度ト爲シ夫レ以上ノ溫度ハ絕對ニ必要ナキヲ以テ應用シタルコトナシ又請求人ハ被請求人ノ使用セル室內溫度ヲ華氏百十五度乃至百二十五度ナリト證言スト雖モ前答辯書ニモ記スルカ如ク被請求人ノ釀造法ニ於テハ室內ノ溫度カ華氏七十七度乃至八十六度ニテ足ルモノニシテ決シテ請求人ノ云フカ如ク室內ニ華氏百十五度乃至百二十五度ノ高溫度ヲ利用スルノ必要ナク從テ利用シタルコトナキモノトス請求人ハ甲第一號乃至甲第三號證ヲ提出シテ被請求人ノ使用セル溫度カ恰モ請求人ノ特許範圍タル華氏百十五度乃至百二十五度ニ適合スルモノナリト主張スト雖モ右證據物件ハ一私人ノ證明ニシテ何等證據力ナキノミナラス該證據ハ請求人ノ權利ヲ實施セル證明ニシテ被請求人ノ使用溫度ヲ立證スルノ證據ト爲スニ足ラス況ンヤ被請求人ノ使用溫度ハ其ノ室內ノ華氏七十七度乃至八十六度ニシテ其ノ以上ノ溫度ハ絕對ニ使用セサルニ於テヲヤ要スルニ請求人ハ何等立證スルコトナクシテ强テ被請求人ノ利用溫度ヲ自己ノ權利內ニ誘致シ權利ノ擴張ヲ求メント欲スルモノニシテ不當ノ辯駁ニ過キサルモノトスト云フニ在リ

仍テ本件ニ關スル一切ノ書類及證據ヲ査閱シ審決ノ理由ヲ說明スルコト左ノ如シ

本件請求人ハ自己ノ分權ヲ有スル特許第二〇〇九號醬油釀造法ノ要部ト其ノ要部ノ抵著セル設備ト方法トヲ被請求人ニ於テ實施採用セルヲ以テ被請求人ノ實施スル醬油釀造法ハ前記特許第二〇〇九號ニ抵著スト主張スルモ被請求人ノ實施スル實際ノ方法ニ付テハ何等ノ說明ヲ擧ケス然ルニ被請求人ノ答辯ニ依ルトキハ被請求人ハ諸味桶ノ外底部ニ蒸氣管ヲ迂回セシメ之ニ依テ醬油菌ノ蕃殖ニ適當ナル華氏七十七度乃至八十六度ノ溫度ヲ付與スルモノニシテ室內ノ溫度亦華氏七十七度乃至八十六度ニ止マリ其ノ以上ノ溫度ハ絕對ニ使用セスト主張スルヲ以テ被請求人ノ實施スル方法ハ特許第二〇〇九號ノ明細書ニ記載スルカ如キ設備ヲ爲ササルノミナラス室內ノ溫度亦該特許ノ範圍ニ記スル所ト異ナルヲ以テ兩者互ニ抵著スルモノト認ムルヲ得ス請求人ハ被請求人カ陳述スルカ如ク桶ノ外部ヲ華氏七八十度ニ維持シ尙諸味ヲシテ同一溫度ニ達セシムルコトハ特許第二〇〇九號ノ構造及被請求人ノ採用セル特許第二〇〇九號ト同一ノ構造ヲ以テハ夏季以外ニ於テハ到底不可能ナルカ故ニ室內ノ溫度ハ華氏百十五度乃至百二十五度ナラサルヘカラスト主張スト雖モ請求人ハ請求人ノ所謂被請求人ニ於テ採用セル特許第二〇〇九號ト同一ノ構造ナルモノニ付テ說明ヲ與ヘサルコト前述スル所ノ如クニシテ其ノ構造ノ如何ナル點ニ於テ同一ナリト稱スルカヲ知ルニ由ナキノミナラス特許第二〇〇九號ノ構造ニ於テ不可能ナルノ故ヲ以テ被請求人ノ方法ニ於テモ亦室內ノ溫度ハ華氏百十五度乃至百二十五度ナラサルヘカラストノ主張ハ其ノ理由アルモノト認ムルヲ得ス又請求人ハ室內ノ溫度ヲ華氏百十五度乃至百二十五度ニ熱スルノ結果桶內ノ諸味ニ華氏七八十度ノ溫度ヲ保タシムルコト甲號證ノ立證スル所ナルヲ以テ被請求人カ桶內ノ諸味ニ華氏七十七度乃至八十六度ノ溫度ヲ付與スルハ本件特許ノ範圍ニ屬スヘキモノナリト云フト雖モ本件特許ノ明細書中諸味ノ溫度ニ付テ記載スル所ナキヲ以テ斯ノ如キハ該特許ノ範圍ナリト云フヲ得ス

右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ
請求人申立相立タス
明治四十年十二月五日於特許局

審判長　特許局事務官　中松盛雄
特許局技師　安藤格
特許局事務官　入見次郎

第7336号 本文

第7336号 本文

○行政裁判所判決　國有山林引戻不許可處分ニ對スル訴ニ付キ去月二十九日行政裁判所ニ於テ左ノ如ク判決セリ

明治三十七年第三九六號

裁判宣告書

岩手縣九戸郡宇部村三十三番地士族農

原告　小田　眞諒

右訴訟代理人　辯護士　村松　山壽

被告　農商務大臣　松岡　康毅

右訴訟代理人　辯護士　鈴木　充美

右當事者間ノ明治三十七年第三九六號國有山林引戻不許可處分ニ對スル行政訴訟事件ニ付キ審理判決スルコト左ノ如シ

主文

被告カ爲シタル明治三十七年二月十五日付「明治三十二年八月二十九日付申請國有山林野引戻之件字小谷地ニ限リ聞屆ク」トノ指令中其不許可ノ部分ヲ取消ス

被告ハ陸中國九戸郡宇部村第二十地割第八十九番字廣内官林五町一段八畝三歩此立木共、及同國同郡同村第二十地割第九十番字中澤官林七十五町五段歩此立木共ニ原告ニ下戻スヘシ

訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

事實

原告事實上供述ノ要旨ハ本訴山林ハ天保三年中原告ノ祖父金助ニ於テ同縣同郡下野田村勘右衛門ヨリ甲第一號證ノ如ク鐚錢三箇ト共ニ代金六十五兩ニテ買受ケ同七年中他人ニ賣買名義ヲ以テ抵當トナシ金六十兩ヲ借受ケタルコトアルモ元利悉皆辨濟シ原告ハ完全ニ所有權ヲ有シ又正租モ上納シ來リタリ然ルニ地租改正ノ際官有ニ編入セラレタルヲ以テ明治三十二年八月二十九日下戻ヲ申請シタル處甲第一號證中ノ幾部ハ下戻サレタルモ係爭地ノ部分ハ之ヲ却下サレタリ依テ其却下ノ處分ヲ取消シ被告農商務大臣ハ係爭地ノ下戻ヲ爲スヘシ訴訟費用ハ被告ノ負擔トストノ判決ヲ求ムト云フニ在リテ立證トシテ甲第一號證乃至八號證ヲ提出セリ

被告事實上供述ノ要旨ハ被告カ原告ノ下戻申請三筆ノ土地中其一筆ハ所有ノ證アリシヲ以テ之ヲ許可シ本件係爭ノ二筆ニ付テハ所有ノ證ナキカ故ニ許可セサリシ即チ原告ハ係爭地ニ對スル權利ハ單ニ毛上採取權ニ過キス而シテ本件係爭地ハ三崎御野ノ内ニシテ此三崎野ハ正保年度ヨリ明治六年マテ舊藩ノ牧場トシテ直轄シ其後明治二十一年中ニモ中野治孝ナルモノ之ヲ借受ケ牧牛業ヲ營ミタルコトアルヲ以テ縱シ原告カ甲第一號證ヲ以テ買受タリトスルモ是唯毛上物ニ止リ地盤ニアラサルコト明カナリトス依テ原告ノ請求相立タス訴訟費用ハ原告ノ負擔トストノ一定ノ申立ヲ爲シ甲號各證ノ成立ヲ認メタリ

理由

係爭地カ廣内御山ノ官林ナルコトハ當事者間ニ爭ナシ被告ハ原告先代カ係爭地ヲ買受タリトノ主張事實ヲ立證セントスル甲第一號證ハ唯毛上採取權ノ賣買證ニシテ地盤所有權ノ賣買證ニアラスト主張スルニヨリ裁判所ハ職權ヲ以テ鑑定人二名ヲシテ鑑定セシメタルニ鑑定人鈴木圓二ハ甲第一號證中「三崎御野之内廣内御山御立林之外不殘松木共ニ相添申候」トアルハ地盤ト松木共ニトノ意ニシテ「三エト廣内共」トアルハ三エト地盤トノ意ナリ卽チ同證ハ地盤賣買證ナルコト明カナリト鑑定シ裁判所モ亦之ヲ相當ナリトスルヲ以テ甲第一號證ハ係爭地賣買證ナリト認定ス然ルニ被告ハ御山ハ官山ナレハ私有ノ目的トナラス又係爭地ハ原告先代カ買受ケタリト稱スル日後舊藩ノ牧場タリシモノナリト主張スレトモ前示ノ如ク私有地トシテ現ニ賣買シタル反證アル以上ハ單ニ御山トアルノ一事ヲ以テ官有山林ト云フヲ得ス又係爭地カ舊藩ノ牧場ナリシトノ事實ヲ認ムヘキ證據ナケレハ被告ノ陳辯ハ採用セス又鑑定人田沼駒江ノ鑑定ハ前後一貫セサル嫌アルヲ以テ採用セス以上ノ理由ニヨリ本件原告ノ請求ハ理由アルモノトシ主文ノ如ク判決ス

明治四十年十一月二十九日行政裁判所第三部公廷ニ於テ宣告ス

裁判長　行政裁判所評定官　松浦　厚春

行政裁判所評定官　由布　武三郎

行政裁判所評定官　田中　國三郎

行政裁判所評定官法學博士　清水　澄

行政裁判所評定官　阪本　三郎

行政裁判所書記　松井　道隆

警察

○出火　東京府外四縣ニ於ケル出火左ノ如シ

東京府　本月七日午前七時北多摩郡千歳村大字下祖師ケ谷ヨリ出火全燒六戸同八時鎭火、同九時五十分西多摩郡青梅町大字日向和田ヨリ出火全燒一戸同十時四十分鎭火原因孰モ過失、同八日午前零時三十分豐多摩郡澁谷村大字下澁谷ヨリ出火全燒二戸同三時十分鎭火セリ

鳥取縣　去月十五日午後十時二十分西伯郡外江村ヨリ出火全燒一戸、燒死者一同時四十分鎭火、同二十六日午後七時三十分氣高郡海徳村大字古海ヨリ出火全燒三十三戸同九時鎭火原因孰モ過失ナリ

和歌山縣　本月六日午前一時東牟婁郡新宮町字相筋ヨリ出火全燒十八戸、毀壞二戸、負傷者一同二時三十分鎭火原因過失ナリ

高知縣　本月五日午前二時吾川郡池川村字用居ヨリ出火住屋十棟、納屋九棟燒失同六時鎭火セリ

熊本縣　本月一日午前四時下益城郡森富村大字北田尻ヨリ出火一戸燒失、燒死者一原因過失ナリ

○陸海軍

○水路告示第千九百九十四號

一艦船ニ於テ此告示ヲ領受シタルトキハ速ニ其關係ノ圖誌ヲ改正増補センコトヲ要ス

一方位ハ總テ磁針ニシテ燈塔ノ方位ハ海方ヨリ取ル

第五九八八項

海軍海圖第一二三號日本水路誌第四卷四五八頁ニ關係ス

本洲北西岸　佐渡島南東岸

小木港暗礁ノ除却

新潟縣佐渡郡小木町長ノ照復（明治四十年十一月三十日）ノ要ニ據レハ今般小木港東部外岬ノ藻埼ト三島トノ間ニアル二三ノ暗礁ヲ除却シタルヲ以テ其間ハ幅約十分九鏈最少水深十五呎ノ水道トナレリ故ニ從來ヨリモ大ナル船舶ノ通行ニ差支ヘナキニ至レリト云フ

第五九八九項

海軍海圖第四二九號支那海水路誌第一卷四一三頁ニ關係ス

支那　渤海

大沽門洲新水道ノ航行ニ就テ

嚮ニ水路告示第一九八七號ニ揭ケタル大沽門洲新水道ノ航行ニ關シ今般天津港務局ハ白河改修會ノ報告ニ基キ更ニ左ノ如ク告示（一九〇七年十一月十三日）セリ（外務省通商局通知）

一、信號所ニ於テ表示セル門洲水深ヲ超過スルコト二呎半迄ノ吃水ヲ有スル船舶ハ現今漲潮時ニ水道ニ入ルコトヲ得

二、新水道ヲ用ユル船舶ニ對シ從前發布シタル諸規定ハ依然其效力ヲ有ス

第五九九〇項

海軍海圖新刊

番號	圖名	尺度	刊行年月	定價	記事
四一五	珠江三角洲	〇吋七	明治四十年十一月	金四拾五錢	本圖ハ一九〇六年十二月出版ノ英海軍海圖第三五八八號ニ因ル
二八九	樺太諸分圖 シヤモツフ灣、フラツト灣、ソニ灣、マウカ灣、エフエタフィ錨地	種々	明治四十年十一月	金貳拾五錢	本圖ハ明治三十八年我海軍ノ測量及一九〇四年改正ノ露國海軍海圖第二八七號、第二八四號、第五七三號ニ因ル

同改版

番號	圖名	尺度	刊行年月	定價	記事
七〇〇	マシンロク港マタルビ港及パラウイグ灣	二吋七〇	明治四十年十一月	金貳拾五錢	本圖ハ一九〇六年十二月出版ノ英海軍海圖第九四五號ニ因ル
六七七	セレベス東岸諸錨地 ヅルビ泊地、ゴロンダロ河、リムバ灣、バジヨンゲ錨地、バクジヤマ河口、トミニ泊地、トトク灣、チラムタ港、ラムブヌ泊地	種々	明治四十年十一月	金貳拾五錢	本圖ハ一八九六年十二月出版英海軍海圖第七二七一八號一九〇七年四月大改正ノ英海軍二月出版第二一八九號三年一九〇六年八月大改正ノ同第二一九〇五號ニ因ル
一三六	角島至江崎港（分圖）萩灣須佐港	〇吋七〇	明治四十年十月	金六拾五錢	本圖ハ明治十二年及二十二年我海軍ノ測量

同大改正

番號	圖名	大改正年月
七一八	柴棍河一名ドン、ナイ河附近（分圖）柴棍泊地 柴棍河石花錨ミソー泊地	明治四十年十月
七六三	ランゾーン河及附近（分圖）ランゾーン港 チヤイナ、バキル河口	明治四十年十一月

同廢版

番號	圖名	記事
四六〇	マシンロク及マタルビ灣	海軍海圖第七〇〇號改版成ルヲ以テ之ヲ廢ス
六七六	セレベス東部諸分圖	明治四十年十一月海軍海圖第六七七號改版成ルヲ以テ之ヲ廢ス
六七七	セレベス東岸諸錨地	明治四十年十一月海軍海圖第六七七號改版成ルヲ以テ之ヲ廢ス
一三六	角島至江崎港	明治四十年十月改版成ルヲ以テ之ヲ廢ス
四六四	柴棍河一名ドン、ナイ河附近	海軍海圖第七一八號大改正成ルヲ以テ之ヲ廢ス
七六三	ランゾーン河及附近	明治四十年十一月大改正成ルヲ以テ之ヲ廢ス

英海軍海圖頒布停止

番號	圖名	記事
九四五	マシンロク及マタルビ灣	海軍海圖第七〇〇號改版成ルヲ以テ自今之レカ頒布ヲ止ム
二一九五	セレベス東部諸分圖	海軍海圖第六七七號改版成ルヲ以テ自今之レカ頒布ヲ止ム
二七一八	セレベス東岸諸錨地	海軍海圖第六七七號改版成ルヲ以テ自今之レカ頒布ヲ止ム

右告示ス

明治四十年十二月十日　水路部長　坂本一

注意

一當部刊行ノ圖誌類ハ左記ノ各地ニ於テ之ヲ販賣ス

日本郵船株式會社東京本店○大阪、神戸、長崎、函館、門司ノ五支店

一此告示ノ印刷物ハ若干部ヲ前記ノ圖誌販賣所ニ備置キ無代價ニテ各航海者臨時ノ要望ニ應スヘシ

一此告示ノ印刷物ハ左記ノ韓國沿海各理事廳及帝國領事館ニモ送付シアルヲ以テ各航海者ハ隨時該處ニ就テ覽閱スルヲ得ヘシ

鎭南浦　馬山　仁川　木浦　群山　釜山　元山　城津○孟買　新嘉坡　昆尼剌　香港　盤谷　厦門　汕頭　上海　漢口　杭州　福州　芝罘　天津　牛莊　浦鹽斯德　晩香坡　シヤトル　桑港　ホノルヽ　シツニー　タウンスビル

一海上ノ危險ヲ發見シ又ハ航海上現行圖誌ノ改補ニ必要ナル實驗ヲ爲シタルトキハ速ニ其當事者ヨリ直接水路部ニ報告アラシコトヲ希望ス依テ便宜ノ爲メ水路報告用紙ト題セル印刷物若干部ヲ第一號ニ記セル各圖誌販賣所ニ備置キ無代價ニテ各航海者ノ要望ニ應ス但必スシモ此用紙ヲ用ユルニ及ハス

○第十八師團步兵第三十四旅團兩司令部位置　第十八師團司令部ハ本月五日福岡縣久留米市ニ開廳シ又步兵第三十四旅團司令部ハ島根縣那賀郡濱田步兵第二十一聯隊内ニ新設シ同四日ヨリ事務ヲ開始セリ（陸軍省）

○軍艦發著　各港灣ニ於ケル軍艦發著左ノ如シ（海軍省）

艦名	月日	著	發	行先
千早	一二、七	佐世保		
蒲州	同		下關	横須賀
日進	同	小濱		
音羽	一二、八			
石見	同	四日市		
潮、子日、若葉、朝風、卯月、水無月	同			呉

艦名	月日	著	發	行先
長月、菊月	一二、八	横濱		
村雨	同	江ノ浦		
山彦	同	汕頭		
宇治	同	大冶		
伏見	同			
宗谷	一二、九		徳山	呉
白露	同		同	佐世保
千代田	同		馬山	松眞
白雲、朝潮	同		松ケ下	眞

○日本赤十字社錄事

有功章授與　日本赤十字社ハ左記三十八人ノ功勞又ハ篤志ニ對シ上奏勅裁ヲ經テ有功章ヲ授與セリ

東京府　高橋種紀　小山善
大阪府　目崎武富　青木眞雄
兵庫縣　野口可輔
長崎縣　山崎喜誠
栃木縣　近藤豐兆　秦豐助
奈良縣　中山巳代藏　川路利恭　兒玉利賀　恩田壽夫　村井勝治　尾崎粉
三重縣　源融　高橋要治郎
愛知縣　高橋福三郎　熊谷幸之輔　北川乙次郎
滋賀縣　田中寛　下郷傳平
長野縣　下郷妙子　友田敬三　小川靜次郎　山本幸吉
石川縣　富田歸象　柴田是　丹羽幹
鳥取縣　山田新一郎
宮崎縣　水谷豐一　音田八太郎　多田信　喜多秀一郎　小幡忠藏　佐田家親
鹿兒島縣　野上佐太郎　川邊藤太郎　岩元信兵衛

特別社員推薦　日本赤十字社ハ左記百八十六人ノ功勞又ハ篤志ニ對シ特別社員ニ推薦セリ（以上宮內省）

第7336号 本文

北海道
坂本 武戍
大阪府
高崎 ゑい子
白山 吟子
田邊 貞吉
岡島 千代造
長崎縣
田邊 サキ
平野 重太郎
橋 常藏
牟田 リク
林田 クマ
森 喜三郎
松尾 福三郎
森高 市太郎
岩永 要左衛門
内野 喜左衛門
田中 民三郎
藤原 若松
藤野 小十郎
岩永 總平
猪川 久作
野村 貞
早瀨 源吾
平山 助藏
千葉縣
鵜田 友七
寺田 菊之助
茨城縣
小西 吉太郎
木村 彌五郎
奥澤 源太郎
丸山 藤五郎
荒野 由次郎
磯 要吉
笹目 七郎右衛門
立川 利平
深澤 清兵衛
會津 重雄
武藤 藤兵衛
田中 友三郎

田中 茂兵衛
井野場 雄平
入江 平一郎
宮田 のぶ
石平 三郎
長山 佐七
板橋 揚涼
宮田 重美
小池 多介
宇佐美 克三
滑川 英太郎
大内 喜三郎
鹿志村 龜吉
西野 仁兵衛
結城 萬藏
大里 元市
俵 汎愛
志賀 文太
藤田 長明
千葉 隣
岡野 忠右衛門
岡本 儀兵衛
片岡 三四郎
大久保 勝四郎
塙 嘉一郎
和田 利八郎
宇野 壽之
栃木縣
來栖 市左衛門
上野 房之助
川上 勝吉
秋間 爲八
館野 英
渡邊 政一郎
村山 太助
高津 彌平
村上 秀四郎
坂本 源左衛門
奈良縣
田村 市郎
佐伯 覺燈
駒岡 慧證

愛知縣
杉本 庄平
岐阜縣
豐田 定一郎
河合 柳吉
長野縣
依田 義則
池田 義人
石原 藤一郎
小林 敎學
小池 又四郎
青木 兼吉
福島縣
仁井田 半藏
山田 平四郎
青森縣
安田 才助
山形 誠一
岡山縣
安原 吉平
秋山 亮
廣島縣
宮崎 富助
高知縣
竹村 與右衛門
井上 作次郎
櫻木 嘉右衛門
川崎 豐太郎
川村 益太郎
上田 源助
原 和三郎
山脇 儀太郎
山脇 勝枝
門田 來吉
川島 猪之助
橋田 早苗
山崎 好照
武内 利保
岡上 忠兵衛
内川 一貫
森下 直樹
藤崎 朋之

熊本縣
宮尾 博
宮崎縣
山内 卯太郎
大和田 傳藏
圖井 忠行
鹿兒島縣
上村 眞助
南郷 德之助
奧田 榮之進
宮之原 重
原田 清兵衛
上山 利助
伊知地 隆清
壽 德廣
大河平 隆正
有馬 祐太郎
宮里 正靜
池田 政德
中山 嘉兵衛
植村 靜吉
小川 駒太郎
暉峻 普瑞
上野 喜左衛門
田中 兼秋
川添 武雄
入部 兼吉
小島 善壽
中原 清實
有馬 助五郎
出口 幸市
町田 一半
小田 次右衛門
平田 禎
大久保 利貞
黒木 正義
有村 甚四郎
鮫島 壯平次
竹之内 伊太郎
中島 吉兵衛
松崎 吉磁
平井 省

宮原 景吉
中俣 健吉
橋口 兼祥
宮里 壯次郎
有馬 九郎
中馬 誠一
乾 泰山
中村 思無邪
野崎 兼道
上田 篤
鳥飼 秀文
鬼塚 尙熊
大重 爲康
志喜 玖里
鰺坂 正一郎
島津 長丸
高崎 靜治
久木田 正八
小田 耕夫
仁禮 明石
關 嘉太郎
川添 祐紀
元山 藤兵衛
在韓國
前間 恭作
在關東州
川久保 鐵三
兒島 幸吉
劉 雨田
劉 心田
倪 鴻遠
閻 培和
野澤 長次郎
有賀 定吉
川崎 喜三郎
長濱 淺太郎
佛國人
ホーラース、フィナリー
在孟買
間島 與喜

○學事

○京都帝國大學附屬圖書館寄贈圖書 去月中内外各所ヨリ京都帝國大學附屬圖書館ヘ寄贈セシ圖書ハ和漢書八十六冊、洋書十冊、合計九十六冊ニシテ外ニ新聞雜誌小冊子類二百三十一種トス前記和漢洋書中重ナルモノヲ擧クレハ池邊義象ヨリ寄贈セル同人著銀臺公、島地默雷ヨリ寄贈セル紫風全集、文學博士大槻文彥ヨリ寄贈セル六無齋全書竝ニ英人ラングヨリ寄贈セル同人著「ジー、リヴァー、ビルコマヨ」等ナリ（文部省）

○財政

○國庫歲入歲出現計 大藏省ニ備フル主計簿ニ依リ調査シタル歲入歲出ノ現計左ノ如シ（△印ハ減）（大藏省）

科目	四十年度	三十九年度	比較ノ差増減
歲入ノ部			
經常部			
租税	圓 一四二、八〇一、二二二・八九一	圓 一二〇、八九一、三九四・八四五	圓 二一、九〇九、八二八・〇四六
地租	二八、八八〇、六八〇・七六九	二七、二九五、九四二・九二八	一、五八四、七三七・八四一
酒税	三八、五四一、九七〇・五三四	三三、九五九、四一七・四三八	四、五八二、五五三・〇九六
内地諸税	四六、八四一、五七七・六二五	三五、〇四九、〇五〇・四九五	一一、七九二、五二七・一三〇
關税	二八、五三六、九九三・九六三	二四、五八六、九八三・九八四	三、九五〇、〇〇九・九七九
印紙收入	一四、五九四、一六四・二五三	一八、二八二、四二七・二七五	△三、六八八、二六三・〇二二
官業及官有財産收入	三四、七二二、八六九・一七一	三三、一七四、二七八・六三四	一、五四八、五九〇・五三七
郵便電信收入	二〇、七二八、七一五・九八七	一七、七九九、九三七・一五六	二、九二八、七七八・八三一
諸收入	一三、九九四、一五三・一八四	一五、三七四、三四一・四七八	△一、三八〇、一八八・二九四
雜收入	一、四三二、〇八一・五〇三	一、四〇九、九四八・七八九	二二、一三二・七一四
合計	一九三、五五〇、三三七・八一八	一七三、七五八、〇四九・五四三	一九、七九二、二八八・二七五
臨時部			
官有物拂下代	九五六、八一一・四六五	一、一〇〇、七一九・〇九九	△一四三、九〇七・六三四
雜收入	九、五八七、二六六・九八五	一、七〇八、四八二・二七一	七、八七八、七八四・七一四
地方分擔納付金	二六五、〇〇〇・〇〇〇	六七、四〇〇・〇〇〇	一九七、六〇〇・〇〇〇
港灣設備納付金	一、五〇〇、〇〇〇・〇〇〇	五〇〇、〇〇〇・〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇
公債募集金	四七五・〇〇〇	—	四七五・〇〇〇
獻納金	一四八、五〇〇・〇〇〇	—	一四八、五〇〇・〇〇〇
前年度繰入金	六五、九七五、四四七・三九八	五七、一六〇、四九三・九四四	八、八一四、九五三・四五四
臨時軍事費特別會計剩餘金繰入	二一二、七三九、七一七・九二五	—	二一二、七三九、七一七・九二五
停廢給養費償還金收入	四七、四五二、四八五・二三八	—	四七、四五二、四八五・二三八
合計	三三八、六二三、七〇四・〇一一	六〇、五三七、〇九五・三一四	二七八、〇八六、六〇八・六九七
總計	五三二、一七四、〇四一・八二九	二三四、二九五、一四四・八五七	二九七、八七八、八九六・九七二
歲出ノ部			
經常部	一九七、二八〇、五二八・六二四	二四三、六四一、一七二・六七一	四六、三六〇、六四四・〇四七
臨時部	九一、一九八、四八二・九七七	五五、〇七四、三八〇・二八三	三六、一二四、一〇二・六九四
總計	二八八、四七九、〇一一・六〇一	二九八、七一五、五五二・九五四	△一〇、二三六、五四一・三五三

（備考）四十年度ハ四十年十一月三十日、三十九年度ハ三十九年十一月三十日ノ現計ヲ示スモノトス

○産業

○純金相場 本月二日ヨリ同七日ニ至ル各日純金相場百匁ニ付キ五百圓ナリ（日本銀行ノ報告ニ據ル）

○磅相場 本月二日ヨリ同七日ニ至ル各日磅相場一磅ニ付キ九圓八十二錢九毛ナリ（橫濱正金銀行ノ報告ニ據ル）

○鑛業事項 鑛業法ニ依リ處分シタルモノ左ノ如シ（農商務省）

試掘許可

登錄番號	鑛區所在地	鑛種	面積	鑛業權者住所氏名	許可及登錄月日	事由
京都試登錄第百四十一號	京都府船井郡下和知村、何鹿郡山家村地内	金、	二五六、七四三	京都府船井郡上和知村 茨木和三郎	一一、二九	試掘願許可
愛媛試登錄第二百三十一號	伊豫郡砥部村地内	銅	八七六、三一一	徳島市大字寺町 藍山鉅公	一一、二九	同
石川試登錄第百三十二號	羽咋郡堀松村、志加浦村地内	滿俺	一一一、三〇〇	石川縣羽咋郡羽咋町 永井直吉	一一、二九	同
富山試登錄第二十九號	東礪波郡利賀村地内	銀、銅、鉛、亞鉛	二二八、五一一	同縣能美郡小松町 羽場貢次郎 外一人	一一、二九	試掘鑛區減區願許可

○通運

○航海奬勵認許證書下付 遞信省ニ於テ航海奬勵法ニ依リ日本郵船株式會社所有船丹後丸ニ對シ昨九日ヨリ明治四十一年十一月二十五日マテ有效ノ認許證書ヲ下付セリ 該船ハ明治三十八年四月十五日帝國船籍ニ登錄セラレタル鋼製汽船（總噸數七千四百六十三噸二三最強速力十五海里六〇）ニシテ同三十七年十二月十二日進水セシモノナリ（遞信省）

○衛生

○傳染病患者及死亡者數 去月十六日ヨリ同二十日ニ至ル赤痢、腸窒扶斯、痘瘡患者及死亡者數左ノ如シ（△印ハ報告未着）（内務省）

道府縣		赤痢 患者	赤痢 死者	赤痢 本年初發以來ノ累計 患者	赤痢 本年初發以來ノ累計 死者	腸窒扶斯 患者	腸窒扶斯 死者	腸窒扶斯 本年初發以來ノ累計 患者	腸窒扶斯 本年初發以來ノ累計 死者	痘瘡 患者	痘瘡 死者	痘瘡 本年初發以來ノ累計 患者	痘瘡 本年初發以來ノ累計 死者
北海道	區	一	一	一七八	三四	九	三	二二一	四三	—	—	—	—
	郡	—	—	一八三	四六	三二	一〇	八八〇	一五八	—	—	—	—
東京	市	二	二	三三九	七一	一八	五	一、二二六	二八九	—	—	—	—
	郡	二	二	二二七	五八	二	二	四八二	一〇六	—	—	—	—
京都	市	—	—	一四六	二八	△		三六九	九七	—	—	—	—
	郡	—	—	八七	三六			二六六	五八	—	—	—	—
大阪	市	—	六	三〇八	一一一	七	六	三三八	一四一	—	—	四	—
	郡	五	—	九五〇	一三三	二	—	一二一	三五	—	—	—	—
神奈川	市	一	—	九三	一〇	四	一	二六五	八五	—	—	—	—
	郡	—	—	一四八	二八	九	三	三四九	六三	—	—	—	—
兵庫	市	一	—	一三五	三二	五	二	二三〇	四一	—	—	—	—
	郡	三五	三	五九九	一四四	七	一	二五九	五九	—	—	—	—
長崎	市	—	—	一五	二	二	—	一八〇	四六	—	—	—	—
	郡	三四	八	五二八	一二二	四	二	二三四	四〇	—	—	—	—
新潟	市	一	—	八四	二七	—	二	四〇	一六	—	—	—	—
	郡	一	一	五三二	一一九	一七	四	七一五	一六二	—	—	—	—
埼玉	郡	四	二	一七九	三七	二	一	七六〇	一九四	—	—	—	—
群馬	市	一	—	一八六	五六	一	一	八四	三三	—	—	—	—
	郡	五	—	五一八	九八	七	—	四一〇	一一〇	—	—	—	—
千葉	郡	—	一	五一四	一〇五	六	三	三二四	八八	—	—	—	—
茨城	市			七	一			五〇	一七	—	—	—	—
	郡	△		二四一	六二	△		三四二	六八	—	—	—	—
栃木	市	—	—	—	—	三	—	一四七	二二一	—	—	—	—
	郡	一	一	八八	三一	九	六	一、一三二	二二二	—	—	—	—
奈良	市	—	—	二	一	—	—	四	二	—	—	—	—
	郡	—	—	六〇	一五	—	一	五五	一八	—	—	—	—
三重	市	—	—	四〇	九	一	—	二五	七	—	—	—	—
	郡	三	五	二八八	五九	—	—	九九	七四	—	—	—	—
愛知	市	二	—	二九七	五一	三	二	二二五	四一	—	—	—	—
	郡	五	一	七八三	一七六	一〇	二	四六五	一三一	—	—	三	三
静岡	市	—	—	七六	一〇	一	—	三三	一〇	—	—	—	—
	郡	六	二	五四九	一二一	二	五	六八四	一一三	—	—	—	—
山梨	市	—	—	四	—	—	—	一九	二	—	—	—	—
	郡	一〇	三	七二八	一二五	一六	—	一一九	一九	—	—	—	—
滋賀	市	—	—	三	一	—	—	一二	二	—	—	—	—
	郡	—	—	一〇八	三一	四	二	七三	二七	—	—	—	—
岐阜	市	—	—	二八	七	—	—	三四	七	—	—	—	—
	郡	三	三	八三一	一九六	二	一	三一九	八二	—	—	—	—
長野	市	—	—	一〇	二	二	—	二四七	五九	—	—	—	—
	郡	五	五	五八二	一三一	三一	五	一、〇九四	二三三	—	—	一	—
宮城	市	—	—	一一	二	一	—	一二五	二〇	—	—	—	—
	郡	三	—	四四七	一一四	一四	六	九一一	一六一	—	—	—	—
福島	市	—	—	六	二	—	—	一一七	二三	—	—	—	—
	郡	一	—	六二四	一五八	—	—	六九七	一三八	—	—	—	—
岩手	市	一	—	五	—	三	—	二六	五	—	—	—	—
	郡	八	一	二〇二	四六	八	五	三〇二	六〇	—	—	—	—
青森	市	△		一四	三	△		一五五	三〇	—	—	—	—
	郡			一三四	三四			二三八	五八	—	—	—	—
山形	市	—	—	三	一	一	—	九六	一九	—	—	—	—
	郡	二	二	三六〇	五六	一三	二	七六〇	一三九	—	—	—	—
秋田	市	—	—	一〇	一	—	—	四一	六	—	—	—	—
	郡	一	二	四三五	九三	四	一	六四六	一一八	—	—	—	—
福井	市	—	—	二三	九	—	—	一五	二	—	—	—	—
	郡	二	—	七六一	二〇三	—	—	三八	一〇	—	—	—	—
石川	市	一	—	五八	一三	一	一	一二	四	—	—	—	—
	郡	一	—	九一一	一七八	二	—	一〇一	三一	—	—	—	—
富山	市	—	—	一九	一	一	—	二八	九	—	—	—	—
	郡	—	—	二五四	一〇一	一	—	四四	一三	—	—	—	—
鳥取	市	△		五	三	—	—	六四	一一	—	—	—	—
	郡			五二	一九	—	—	三四三	六二	—	—	—	—
島根	市	—	—	二	—	二	—	四二	四	—	—	—	—
	郡	二	二	一五二	三八	七	三	一四五	三六	—	—	—	—
岡山	市	五	—	二〇一	四六	三	—	一四	一七	—	—	—	—
	郡	一〇	四	四八九	一二五	五	—	一七三	五三	—	—	—	—
廣島	市	—	—	三四	一二	一	—	七五	三〇	—	—	—	—
	郡	八	六	一、三四六	三九九	三	一	一六八	五〇	—	—	—	—
山口	市	△		一二	六	△		二三	九	—	—	—	—
	郡			三七四	六四			二八八	六八	—	—	—	—
和歌山	市	—	—	三	—	一	—	三七	二	—	—	—	—
	郡	—	—	七七	一二	一	一	一七二	二三	—	—	六九	八
徳島	市	—	—	一〇	六	△		一三	三	—	—	—	—
	郡	六	四	二五七	八一			一七〇	一九	—	—	—	—
香川	市	—	—	二七	五	—	—	一六	三	—	—	—	—
	郡	三三	七	一、一五八	三七一	—	—	一七九	二二	—	—	—	—
愛媛	市	一	—	四	二	六	—	四三	一〇	—	—	—	—
	郡	七	一	三七四	一〇一	二	—	一八二	四四	—	—	—	—

○印度ペスト病況

印度ニ於ケル本年十月中ノペスト病ニ付キ香港在勤領事館事務代理ヨリ去ル九日附ヲ以テ左ノ如ク報告アリタリ（外務省）

十月中ペスト之流行ハ依然盛ニ猖獗ヲ極メ其死亡者ハ左ノ如シ

地名	死亡者
ボンベイ	一、三〇〇
カラチ	一、〇〇〇
ハイデラバード	三〇〇
中央州	二〇〇
北西州	一、〇〇〇
合計	三、六〇〇

○香港ニ於ケル本邦領事館事務代理ヨリ去ル十八日附ヲ以テ左ノ如ク報告アリタリ

同地領事館事務代理外務書記生益子藤造

香港ニ於ケル本邦領事館等ニ付キ在勤領事館事務代理ヨリ去ル十八日附ヲ以テ左ノ如ク報告アリタリ（外務省）

十一月

日	打印電報料	本邦（本邦通貨）	露領（露国通貨）	本邦（本邦通貨）
四日	一、〇〇圓	九五〇〇	一、〇〇圓	九五〇〇
五日	〃	九五〇〇	〃	九五〇〇
六日	〃	九五〇〇	〃	九五〇〇
八日	〃	九五〇〇	〃	九五〇〇
九日	〃	九五〇〇	〃	九五〇〇
十日	〃	九五〇〇	〃	九五〇〇
十一日	〃	九五〇〇	〃	九五〇〇
十二日	〃	九五〇〇	〃	九五〇〇

○新嘉坡金融状況

新嘉坡ニ於ケル本年九月中ノ金融状況ニ付キ在同地領事館事務代理外務書記生倉橋熊太郎ヨリ去ル八日附ヲ以テ左ノ如ク報告アリタリ（外務省）

九月

銀行名	四日	十一日	十八日	二十五日
渣打銀行	三四九	三四九	三四九	三四九
香港上海銀行	三四九	三四九	三四九	三四九
麦加利銀行	三四九	三四九	三四九	三四九
和蘭銀行	三四九	三四九	三四九	三四九
同上為換相場	三四九	三四九	三四九	三四九

○全國氣象

十二月六日

區別	氣壓	風向	風力	天氣
第一區	三〇・〇	北	一	晴
第二區	三〇・〇	北	一	晴
第三區	三〇・〇	北	一	晴
第四區	三〇・〇	北	一	晴
第五區	三〇・〇	北	一	晴
第六區	三〇・〇	北	一	晴
第七區	三〇・〇	北	一	晴
第八區	三〇・〇	北	一	晴
第九區	三〇・〇	北	一	晴
第十區	三〇・〇	北	一	晴

○觀象

○全國氣象

十二月六日

地名	氣壓	風向	風力	天氣	溫度	降雨量
第一區	三〇・〇	北	一	晴	一	〇
第二區	三〇・〇	北	一	晴	一	〇
第三區	三〇・〇	北	一	晴	一	〇
第四區	三〇・〇	北	一	晴	一	〇
第五區	三〇・〇	北	一	晴	一	〇
第六區	三〇・〇	北	一	晴	一	〇
第七區	三〇・〇	北	一	晴	一	〇
第八區	三〇・〇	北	一	晴	一	〇
第九區	三〇・〇	北	一	晴	一	〇
第十區	三〇・〇	北	一	晴	一	〇

○氣象概況

十二月九日午前九時氣象

十二月九日午後四時氣象

○氣圖略解

十二月九日午後四時ノ氣壓ハ北海上ニ低ク南方ニ高シ

第7336号　本文

○廣告

○官報、法令全書、職員錄、賣手續

一　官報　本局
　　法令全書　同
　　職員錄　同
二　官報　追加
　　法令全書　同
　　職員錄　同
三　官報　臨時增刊
　　法令全書　臨時增刊
　　職員錄　臨時增刊
　　官報　毎日
　　法令全書　毎日
　　職員錄　毎日
四　官報　本局
　　法令全書　同
　　職員錄　同
五　官報　本局
　　法令全書　同
　　職員錄　同
六　官報　本局
　　法令全書　同
　　職員錄　同
七　官報　本局
　　法令全書　同
　　職員錄　同
八　官報　本局
　　法令全書　同
　　職員錄　同
九　官報　本局
　　法令全書　同
　　職員錄　同
十　官報　本局
　　法令全書　同
　　職員錄　同
十一　官報　本局
　　法令全書　同
　　職員錄　同
十二　官報　本局
　　法令全書　同
　　職員錄　同

○生徒募集

東京高等師範學校

文部省

○貯金通帳亡失及盜難

○登記公告

酒田區裁判所

○檢定教科用圖書

○官報、法令全書、職員錄賣手續

○廣告

○華族世襲財產認可

○證書無效

○裁判所書記登用試驗

鹿兒島地方裁判所

長野稅務監督局

爵位局

第7336号　本文

北海道帝國鐵道管理局

明治四十年十一月十日

○工事請負入札

郵便爲替貯金管理所

明治四十年十二月十日

○入札（拂下）

海軍省經理局

明治四十年十二月十日

○入札

神戸稅關

明治四十年十二月十日

○入札

大阪陸軍兵器支廠

明治四十年十二月十日

○林產賣拂

海軍煉炭製造所

明治四十年十二月十日

第7336号　本文

第7336号　本文

第7336号　本文

第7336号　本文

第 7336 号　本文

第7336号 本文

○公示催告

北海道札幌區南四條西五丁目九番地平民商業
被相續人　近藤愛藏
嘉永三年五月六日生
明治三十六年二月十五日午後五時肩書地ニ於テ死亡ス
相續財產管理人　藤井民次郎
北海道札幌區北一條西三丁目二番地
中立人

右被相續人ノ相續人ハ明治四十一年十二月十五日迄ニ其權利ヲ主張スヘシ

明治四十年十二月二日

札幌區裁判所
判事　松岡常吉

○華族世襲財產

子爵山地元彥所有

東京府東京市芝區白金三光町ノ內
一市街宅地合坪數一千二百四十九坪

右世襲財產ト爲シタキ旨願出テタル趣宮內大臣ヨリ達セラル依テ該財產ニ對シ故障アル者又ハ地番等承合シタキ者ハ明治四十一年一月九日マテニ當廳ニ申出ツヘシ

明治四十年十二月三日

東京府

○東京郵便局外國郵便締切時限

明十一日橫濱マテ汽車便送同地ヨリ丹後丸ヲ以テビクトリア經由米國及歐洲ヘ差立ノ郵便物ハ左記ノ時刻ニ締切ル

	東京局	市內各局	橫濱局
通常	十一日午前十時	十一日午前八時	十一日午前十一時半
書留	同日午前九時半	十日午後十時	
小包	十日午後七時	同日午後五時	
爲替（特別）	同日正午十二時	同日午前九時半	
爲替（聯合）	同日午後四時	同日午後一時	

（備考）小包ハ米國、加拿陀及ポートリコ宛

同日橫濱マテ汽車便送同地ヨリ「マンチュリア」號ヲ以テホノルヽ經由米國及歐洲ヘ差立ノ郵便物ハ左記ノ時刻ニ締切ル

	東京局	市內各局	橫濱局
通常	十一日午前十時半	十一日午前八時	十一日午後零時半
書留	同日午前十時	同上	
小包	十日午後七時	十日午後五時	
爲替（聯合）	十一日午前九時半	同日午後四時	
爲替（特別）	十日正午十二時	同午前九時半	

（備考）小包ハ米國、加拿陀及ポートリコ宛

同日橫濱マテ汽車便送同地ヨリ「サイクロプス」號ヲ以テビクトリア經由米國及歐洲ヘ差立ノ郵便物ハ左記ノ時刻ニ締切ル

	東京局	市內各局	橫濱局
通常	十一日午後七時半	十一日午後五時	十一日午後十時
書留	同日午後七時	同上	
小包	同日午後五時	同日午後三時	
爲替（聯合）	同日午後四時	同日正午十二時	
爲替（特別）	十日正午十二時	十日午前九時半	

（備考）小包ハ米國、布哇及ポートリコ宛

同日敦賀マテ汽車便送同地ヨリ「ルーングムーン」號ヲ以テ西伯利及歐洲ヘ差立ノ郵便物ハ左記ノ時刻ニ締切ル

	東京局	市內各局
通常	十一日午後七時半	十一日午後五時
書留	同日午後七時	同上
價格表記	同上	同上
小包	同上	同上
爲替（聯合）	同日午後四時	十日午後四時
爲替（特別）	十日午後四時	同上

（備考）本便ニ依リ差立ノ露國以外歐洲諸國宛ハ本便差立ノ指定アルモノニ限ル」小包ハ西伯利及露國宛ノミ

○同上豫告

本月中外國郵便締切豫定日左ノ如シ

一タコマ經由歐米諸國宛郵便物　十二日、二十三日頃締切ノ筈
一布哇經由歐米諸國宛郵便物　十八日、二十四日頃締切ノ筈
一シアトル經由歐米諸國宛郵便物　十一日、二十五日頃締切ノ筈
一加拿陀經由歐米諸國宛郵便物　二十六日頃締切ノ筈
一ポートランド經由歐米諸國宛郵便物　三十日頃締切ノ筈
一西伯利經由歐洲諸國宛郵便物　每週月、水、金曜日
一上海香港並ニ印度地方ヘハ每週數回ノ差立アルニ依リ隨時差出ス方速達ヲ得ヘシ

○日本郵船株式會社汽船橫濱出發表

兵庫丸　今十日午後二時橫濱出帆八丈島、父島、母島（沖湊、東湊）行（出帆日延）
天津丸　明十一日未明橫濱出帆荻ノ濱、函館、小樽行
丹後丸（米國行）　同日午後二時橫濱出帆ビクトリア、シアトル行
芝罘丸　明後十二日未明橫濱出帆荻ノ濱、函館、小樽行
住ノ江丸　同日正午十二時橫濱出帆半田、四日市行（出帆日延）
八幡丸（濠洲行）　本月十四日正午十二時橫濱出帆同十七日午前十時神戶出帆門司、長崎、香港、マニラ、木曜島、タウンスビル、ブリスベーン、シドニー、メルボルン行
三河丸　同十五日未明橫濱出帆荻ノ濱、函館、小樽行
三池丸　同日正午十二時橫濱出帆四日市、神戶行（出帆日延）
加賀丸　同十六日午前十時橫濱出帆同二十日午前十時神戶出帆門司、上海、香港行
廣島丸　同十七日午後四時橫濱出帆神戶行
酒田丸　同二十日午後四時橫濱出帆神戶、門司、基隆、安平、打狗行

○同上神戶等出發表

第一「オハヨ」號　本月十三日午前十時神戶出帆門司、釜山、木浦、群山、仁川、鎭南浦行（出帆改正）

臺灣航路

西京丸	神戶發正午	門司著發	基隆著
每月	三日	四日	七日
	十八日	十九日	二十二日

本船ハ神戶ニテ鐵道棧橋繫留ニ付キ同所ニテ切符購入乘船ノ便アリ

每日	青森發	函館發	室蘭著
	午前十時	（直航）	翌午前四時
	午後六時	午後八時半	翌午前五時半
	午後十一時半		翌午前六時

○大阪商船株式會社汽船神戶等出發表

韓國行

京城丸　明後十二日大阪出帆門司、仁川行
成興丸　同日午前八時大阪出帆同日午後三時神戶出帆宇品、門司、下關、仁川、鎭南浦行
隅田川丸　本月十三日午前十時大阪出帆同日午後三時神戶出帆門司、下關、釜山、元山行
群山丸　同十四日午前十時大阪出帆同日午後三時神戶出帆門司、下關、釜山、木浦、群山、仁川行
安平丸　同日午後三時大阪出帆同十五日午前十時神戶出帆門司、仁川、鎭南浦行

清國行

開城丸　本月十五日午前十時神戶出帆、門司、大連行
大義丸　同十七日正午十二時大阪出帆神戶、門司、大連行
大信丸　同十九日正午十二時大阪出帆神戶、門司、大連行
天草丸　同二十二日午前十時神戶出帆、門司、大連行

臺灣行

釜山丸　明後十二日正午十二時神戶出帆門司、基隆、安平、打狗行
臺北丸　本月十六日午後三時橫濱出帆同十九日正午十二時神戶出帆宇品、門司、長崎、基隆、澎湖島、安平、打狗行
臺南丸　每月八日、二十三日正午十二時神戶出帆門司、基隆行
臺中丸　每月十五日、三十日正午十二時神戶出帆門司、基隆行

○附錄　今十日發刊辭令八頁

敍任及辭令

官報第七千三百三十六號附錄

明治四十年十二月十日

○辭令

故步兵上等兵勳八等武田眞盛父
武田　吾六
故步兵特務曹長勳七等功七級卜部末吉母
卜部　ウメ
故步兵軍曹勳七等功七級森山文市父
森山　清太郎
故步兵伍長勳八等功七級門脇岩松妻
門脇　フジ
同　金築幸一郎父
金築　榮助
同　持田勝三郎父
持田　勝太郎
故步兵上等兵勳八等藤井良市父
藤井　嘉八
故步兵一等卒勳八等深田雅八郎父
深田　長太郎
故步兵上等兵勳八等功七級寺前好太郎父
寺前　新太
故步兵一等卒勳八等石田貞一郎父
石田　謙四郎
同　宮內八十吉父
宮內　安治
故步兵上等兵勳七等功七級池田傳十郎妻
池田　シヅ
故步兵上等兵勳八等功七級山根岩市父
山根　作平
同　坂根啓太郎父
坂根　品吉
同　瀨崎萬三兄
瀨崎　光一
故步兵上等兵勳七等功七級西川貞四郎弟
西川　友市
故步兵二等卒勳八等田中佐太郎男
田中　茂八郎
故步兵伍長勳七等功七級陰山榮四郎母
陰山　イワ
故步兵上等兵勳八等松木芳右衛門妻
松木　トウ
故步兵二等卒勳八等稻田文藏母
稻田　ナヲ
同　島根文次郎父
島根　亀次郎
故步兵一等卒勳八等山本幸次郎母
山本　ユキ

故步兵二等卒勳八等天津源之助父
天津　壽吉
故步兵上等兵勳八等功七級周藤與太郎父
周藤　梅次郎
故步兵上等兵勳七等功七級小笠原亀市男
小笠原六三郎
故步兵軍曹勳七等功七級長岡爲市男
長岡　勝義
故步兵一等卒勳八等岸本常二郎妻
岸本　イシ
故步兵伍長勳七等持田長藏父
持田　周太郎
故步兵一等卒勳八等功七級黑永良兵衛弟
黑永　春太郎
故步兵二等卒勳八等今津万藏母
今津　エワ
故步兵一等卒勳七等山崎末吉母
山崎　ワ子
故步兵上等兵中江珍藏姉
中江　サワ
故步兵伍長勳八等功七級園山儀助父
園山　奎三郎
故步兵上等兵勳八等功七級石飛啓藏妻
石飛　チヤ
故步兵一等卒勳八等澄川甚助妻
澄川　キシ
故步兵二等卒勳八等藤原傳三郎妻
藤原　ヌイ
故步兵上等兵勳八等功七級福谷虎市父
福谷　榮治郎
故步兵曹長勳七等功七級清水藤一郎母
清水　ユサ
故步兵二等卒又賀治作父
又賀　乙松
故步兵伍長勳七等功七級坂本泰次郎兄
坂本　力太郎
故步兵上等兵勳七等功七級星野又市父
星野　喜之助
故步兵一等卒勳七等服部岩太兄
服部　市五郎
故步兵上等兵勳八等伊達保市父
伊達　友市
故步兵中尉從七位勳五等功五級市岡達洲母
市岡　ハル

故步兵一等卒勳八等上田長太父
上田　仙次郎
故步兵中尉從七位勳六等功五級下瀨峰槌母
下瀨　フシ
故步兵曹長勳七等功七級勝部貞雄母
勝部　カメ
故步兵上等兵勳七等崎山乙次郎父
崎山　亦七
故步兵二等卒勳八等門中清次郎父
門中　甚三郎
故步兵軍曹勳七等功七級高木嘉一郎父
高木　虎太郎
故步兵伍長勳八等功七級青砥權市妻
青砥　カメ
故步兵中尉從七位勳五等功七級小林勝彌父
小林　茂三郎
故步兵中尉從七位勳六等功五級岡野文哉父
岡野　唯一郎
故步兵特務曹長勳六等功七級杖田三平兄
杖田　布一郎
故步兵軍曹勳七等功七級今田祐藏父
今田　他十
同　相川謙吉父
相川　秀樹
故步兵伍長勳八等功七級石原照松父
石原　忠三郎
故步兵上等兵勳八等村上啓治父
村上　歌治
故步兵上等兵勳七等國村喜太郎父
國村　吉平
故步兵上等兵勳八等功七級岡島常太郎父
岡島　國藏
同　古山喜三郎父
古山　新三郎
故步兵上等兵勳八等馬場和一父
馬場　和三郎
故步兵上等兵勳八等功七級安井秀治父
安井　長三
故步兵上等兵勳七等功七級西村甚太郎兄
西村　愛次郎
故步兵上等兵勳八等功七級福間量彥母
福間　トモ
同　坂本兵市父
坂本　保太郎
故步兵二等卒勳八等野上十吉父
野上　廣太

故步兵一等卒勳八等功七級名越槌右衛門父
名越　彥藏
故步兵一等卒勳八等箕田武八父
箕田　最八郎
故步兵一等卒勳七等葭岡金次妻
葭岡　キミ
故步兵一等卒勳八等中林友藏父
中林　常太郎
故步兵二等卒勳八等佐々木喜作妻
佐々木ヨシノ
故步兵一等卒藤井贅太郎父
藤井　德太郎
故步兵一等卒勳八等功七級室田繁市妻
室田　フヂノ
故步兵一等卒勳八等宮田貞三郎父
宮田　廣藏
同　高島市藏妻
高島　チヨ
同　福原榮之助兄
福原　豐太
同　山根與一右衛門妻
山根　トモ
故步兵二等卒勳八等野上作一母
野上　サミ
故步兵一等卒勳八等功七級芝谷市太郎女
芝谷　ナツ
故步兵一等卒勳八等森脇觀次郎父
森脇　京五郎
故步兵伍長勳七等林新三郎妻
林　カタ
故步兵一等卒勳八等村尾福五郎父
村尾　傳五郎
故步兵上等兵勳八等功七級津山勘一父
津山　周太郎
故步兵少尉正八位勳六等功五級松浦正之助兄
松浦　浩
故步兵伍長勳八等功七級佐々井國五郎父
佐々井　爲十
故步兵一等卒勳八等濱崎治太郎父
濱崎　寅吉
同　細田嘉市郎父
細田　彥三郎
故步兵上等兵勳八等功七級荒木源太郎母
荒木　トイ
故步兵一等卒勳八等竹川甚四郎父
竹川　長平

第7336号　敍任及辭令

第7336号　叙任及辞令

故步兵中尉正八位勳六等荒木傳次郎妻　荒木フク
故步兵曹長勳七等功七級美濃子谷竹五郎父　美濃子谷普次郎
故步兵伍長勳七等田中甚一郎父　田中謙四郎
故步兵上等兵勳八等功七級沖藤富次父　沖藤九助
故步兵一等卒勳八等田中實馬女　田中ミ子
故步兵上等兵勳八等功七級八澤貞之助妻　八澤トキ
故步兵一等卒勳八等木建碩太郎妻　木建トナ
同　永富新吉父　永富與吉
同　周藤慶四郎父　周藤長五郎
故步兵二等卒勳八等和久理太左衞門父　和久理長太郎
同　星野林市父　星野榮三郎
故步兵上等兵勳八等功七級植田千代一父　植田喜代三郎
故步兵一等卒勳八等竹內豐一父　竹內千代吉
同　宮本竹太郎母　宮本トキ
故步兵伍長勳八等功七級山崎百太郎父　山崎安太郎
故步兵上等兵勳八等功七級永岡勝治父　永岡林兵衞
同　播本前作父　播本多助
同　二見龜市父　二見伊勢市
同　串崎豐吉男　串崎勇二郎
故步兵上等兵勳八等服部量一男　服部熊太郎
同　森山善市母　森山スヱ
故步兵上等兵勳八等功七級岩田恒市父　岩田榮治
故步兵上等兵勳八等鵜本音市妻　鵜本サア
故步兵一等卒勳八等井上忠作父　井上平太郎
故步兵二等卒勳八等渡邊松四郎父　渡邊龜治
故步兵一等卒勳八等靜間休兵衞父　靜間虎吉

故步兵上等兵勳八等功七級西林茂七郎妻　西林サミ
同　奧田久米一父　奧田伊作
故步兵二等卒勳八等種田福市父　種田辰右衞門
故步兵一等卒勳八等今田金次郎母　今田セキ
故步兵上等兵勳八等功七級須田爲三郎父　須田久三郎
故步兵上等兵勳八等曾田庫市父　曾田和一郎
故步兵一等卒勳八等小原太一郎父　小原德太郎
同　竹田文市父　竹田幸吉
故步兵二等卒佐々木五郎父　佐々木房太郎
同　岡田卯三郎妻　岡田シキ
同　高宮吉太郎父　高宮伊勢太郎
故步兵一等卒勳八等小島友一郎父　小島清市
故步兵一等卒勳八等功七級福島市助父　福島重太郎
同　入岡丈三郎父　入岡菊松
故步兵上等兵勳八等功七級橋木源次郎父　橋木傳吉
故步兵伍長勳八等功七級加納秀吉母　加納カメ
故步兵一等卒勳八等吉岡壽太郎父　吉岡儀一郎
故步兵曹長勳七等功七級栗栖友太父　栗栖鳳次郎
故步兵軍曹勳七等功七級伊藤榮一郎父　伊藤重信
故步兵伍長勳八等功七級江崎佐太郎兄　江崎熊市
同　木村新次郎父　木村辨三郎
同　地田爲吉父　地田林七
故步兵一等卒勳八等中川文治郎兄　中川小太郎
同　田中久太郎兄　田中次郎
同　石川廣太郎母　石川トメ
故步兵上等兵勳八等功七級柳樂長次郎父　柳樂勝兵衞

故步兵二等卒勳八等功七級山本十左衞門妻　山本カネ
故步兵一等卒勳八等功七級山根信太郎父　山根福太郎
故步兵二等卒勳八等三成茂一郎兄　三成三郎
同　岩佐梅之助父　岩佐貞七郎
同　細木熊三郎父　細木福太郎
同　佐々木米吉父　佐々木幸一郎
同　佐々木五三郎父　佐々木忠吉
故步兵一等卒勳八等坂根兼太父　坂根源藏
故步兵上等兵勳八等松島鶴二弟　松島作四郎
故步兵一等卒勳八等功七級中山淺藏母　中山マツノ
故步兵二等卒勳八等田口美之助弟　田口捨市
故步兵上等兵勳八等友國仲助妻　友國ミ子
故步兵上等兵勳八等功七級沖見文吉母　沖見ミチ
故步兵一等卒勳八等功七級稻垣淺之助父　稻垣光太
故步兵二等卒小松原市太父　小松原春治
故步兵二等卒勳八等坪田熊治父　坪田竹治
故步兵上等兵勳七等功五級板垣鹿市男　板垣熊三郎
故步兵中尉從七位勳六等功五級安田繁藏妻　安田トシ
故步兵一等卒勳七等大久保茂一父　大久保權造
同　荒槇作太郎妻　荒槇イツ
故步兵一等卒勳八等惠志熊三郎父　惠志眞藏
同　山田勘四郎母　山田ナミ
故步兵二等卒勳八等安藤宗市女　安藤資美子
故步兵一等卒勳八等功七級佐藤三郎父　佐藤織彌
故步兵二等卒勳八等竹下豐一父　竹下甚吉
同　秋柴武一女　秋柴豐子

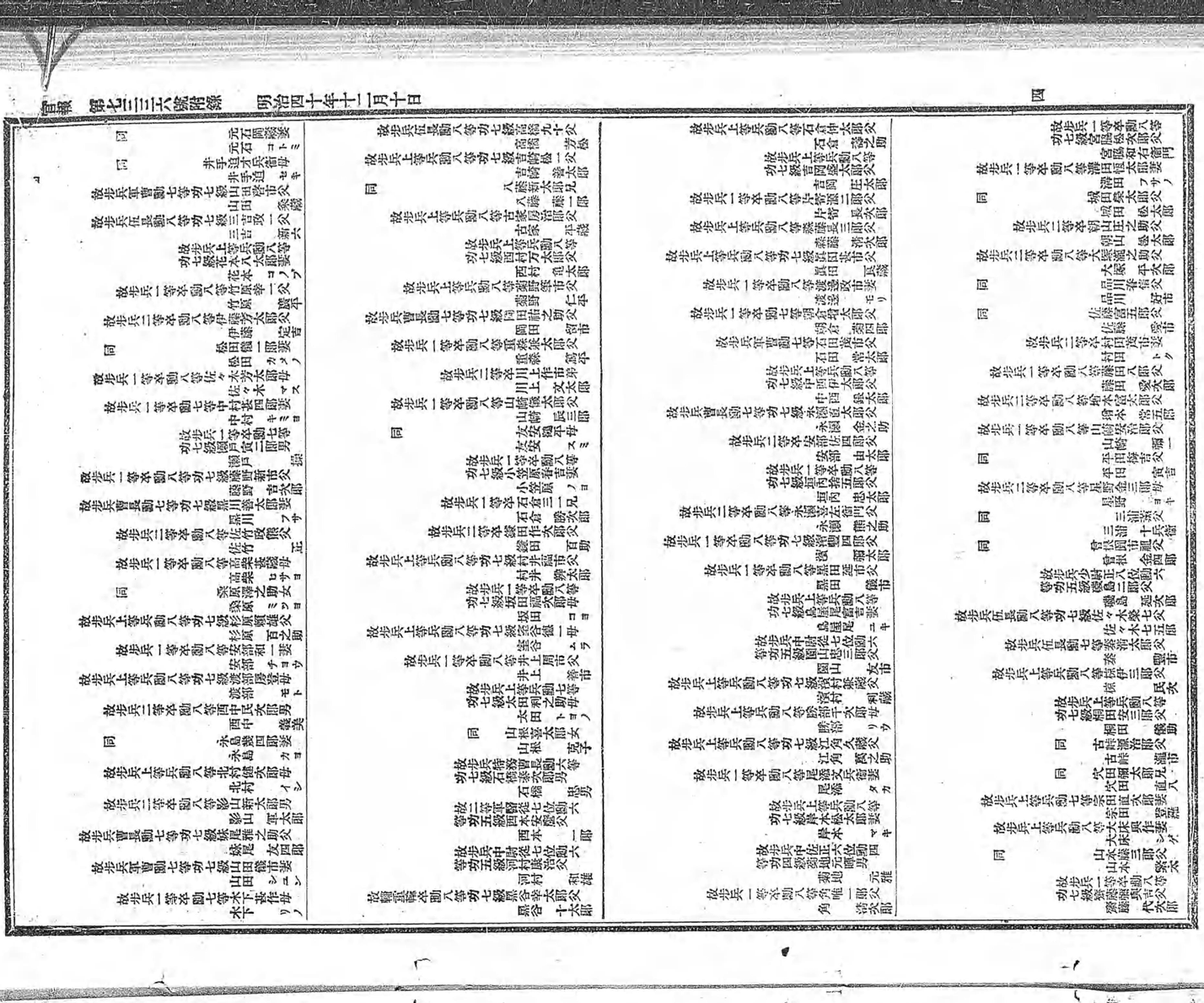
故步兵少尉正八位勳六等功五級板持松太母　板持シン
故步兵軍曹勳七等功七級玉元淺太郎妻　玉元サダノ
故步兵伍長勳八等功七級宮田文一母　宮田コウ
故步兵上等兵勳八等功七級石川米吉父　石川菊治
同　崎藤要妻　崎藤ヨシノ
故步兵一等卒勳八等谷野千次郎父　谷野德三郎
故步兵上等兵勳八等功七級室崎龍太郎父　室崎德造
故步兵上等兵勳七等功七級水木竹市兄　水本藤市
同　林卯吉妻　林ツ子
故步兵一等卒勳八等山田海三郎父　山田榮助
同　沖田清一父　沖田米吉
同　佐々木五郎市母　佐々木クリ
同　森山甚市男　森山和市
同　西尾乙三郎父　西尾林三郎
故步兵上等兵勳八等功七級山根辰治父　山根孫治
故步兵一等卒勳八等島田助吉妻　島田シホ
故步兵伍長勳八等酒井清九郎父　酒井忠吉
故步兵一等卒勳八等功七級三浦松吉男　三浦秀早
故步兵一等卒勳八等大野千代藏父　大野清吉
同　米澤平治父　米澤平兵衞
故步兵上等兵勳七等功七級有福常吉母　有福ソメ
故步兵一等卒勳七等荒川藤太郎父　荒川仁右衞門
故步兵一等卒勳八等東嶋喜三郎父　東嶋芳三郎
同　今岡米藏父　今岡德太郎
同　長瀨祐藏父　長瀨夫市
同　若佐善太父　若佐保太

故步兵上等兵勳八等功七級橋治三郎父　橋遊久次
同　竹內品吉妻　竹內タ子
故步兵一等卒勳八等前峠喜市男　前峠彌一
同　足立豐市男　足立嘉市
同　江角粂次郎父　江角榮次郎
故步兵一等卒勳八等松本東一弟　松本德藏
故步兵上等兵勳八等功七級植森與市父　植森常太郎
故步兵上等兵勳七等功七級近重房市兄　近重信太郎
故步兵二等卒勳八等手銭末市父　手銭虎次郎
故步兵軍曹勳七等功七級平山猪三郎父　平山猪三郎
故步兵上等兵勳八等影山惣福父　影山虎市
故步兵一等卒勳八等功七級佐々木玉市父　佐々木小市
故步兵一等卒勳八等岡本惠一父　岡本若治
故步兵二等卒勳八等渡邊粂右衞門父　渡邊常松
同　吉田芳太郎父　吉田健四郎
同　光田藤太郎父　光田作太郎
同　妹尾夅太郎父　妹尾覺助
同　片寄軍之助母　片寄フカ
同　森脇要太郎妻　森脇ダヱ
故步兵上等兵勳八等功七級熊原保右衞門父　熊原時藏
故步兵二等卒勳八等吉村虎市父　吉村又市
故步兵上等兵勳七等森岡清作妻　森岡ヤスノ
故步兵二等卒勳八等田邊淺太郎女　田邊フサヨ
同　福間新助父　福間周三郎
故步兵伍長勳八等功七級矢田軍太郎男　矢田守三
故步兵二等卒內田惣市父　內田清吉
同　若宮幾平父　若宮吉平

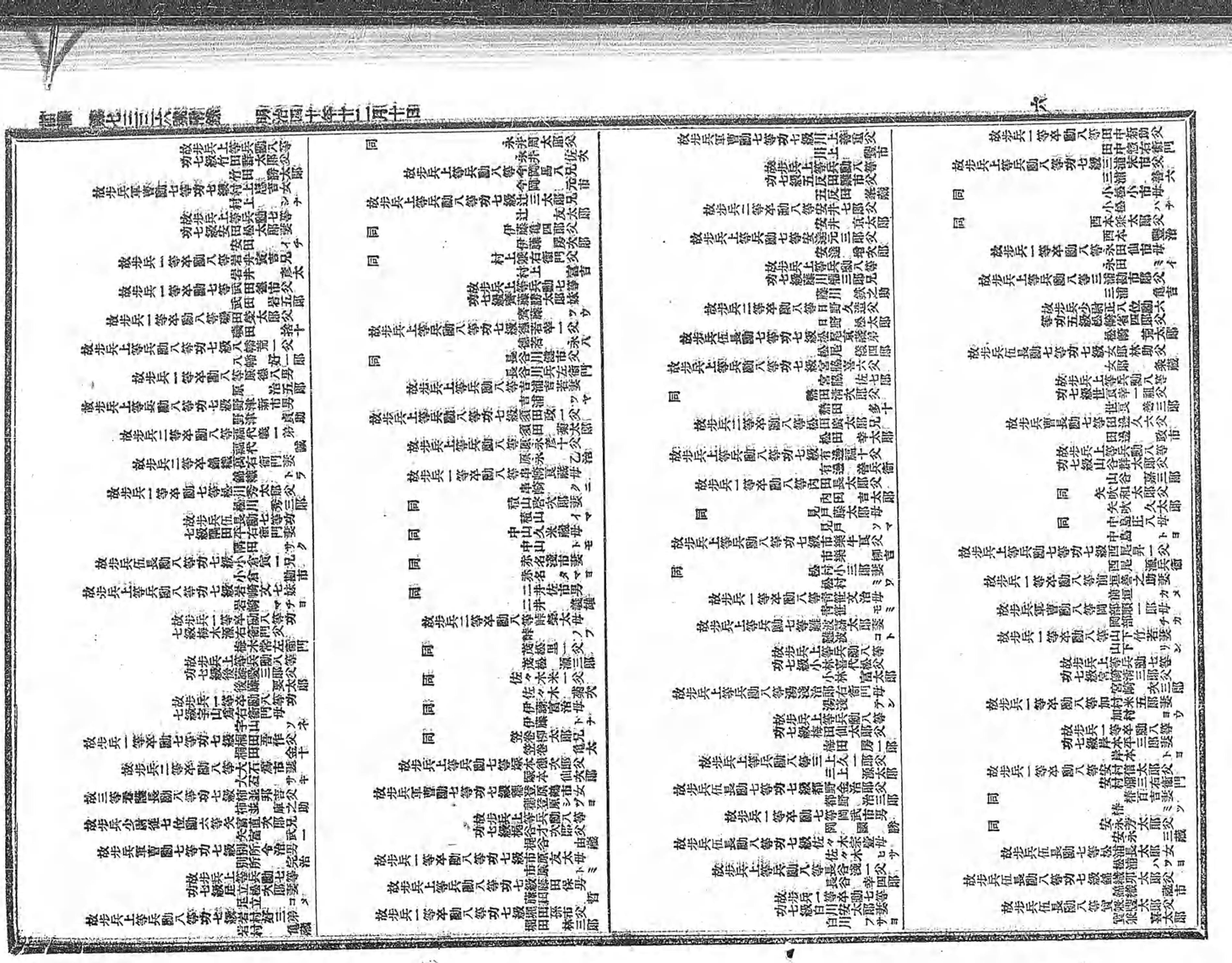
故步兵二等卒勳八等上原松太郎父　上原增吉
故步兵一等卒勳八等吉田宇太郎父　吉田安右衞門
故步兵伍長勳七等功七級原幸之助父　原祐太郎
故步兵一等卒勳八等川本利三郎父　川本友太郎
故步兵伍長勳七等功七級落合傳次郎妻　落合シテ
故步兵一等卒勳八等功七級佐々木熊右衞門妹　佐々木ツヤ
故步兵伍長勳八等功七級末石茂四郎父　末石源吉
故步兵上等兵勳八等功七級林藤七父　林久吉
同　小林陽一父　小林新太郎
故步兵軍曹勳七等功七級宮本助市父　宮本榮四郎
同　佐々木榮七母　佐々木ツネ
故步兵伍長勳七等功七級原和助母　原カツ
故步兵伍長入江虎市父　入江傳兵衞
故步兵伍長勳八等功七級中田林太郎母　中田サタ
故步兵伍長勳七等功七級久保靜吾妻　久保シヅノ
故步兵伍長勳八等功七級青木求馬母　青木イシ
故步兵伍長勳八等須藤其市弟　須藤儀角
故步兵一等卒勳八等長田熊太郎父　長田庄兵衞
同　片岡政市妻　片岡ハル
同　多久和重兵衞父　多久和彌七
同　鹿森艮市父　鹿森利代吉
同　小川利吉父　小川濤吉
同　松本文吉父　松本猶三郎
同　吹ケ追作太郎母　吹ケ追セン
同　濱村三代吉母　濱村カソ
同　重富藏造父　重富福太郎
故步兵上等兵勳七等功七級小林林之助母　小林チカ

故步兵軍曹勳七等功七級松岡甚吉妻　松岡タキノ
故步兵上等兵勳八等森藤粂太郎父　森藤三右衞門
故步兵上等兵勳七等功七級森次郎父　森宇助
故步兵上等兵勳八等功七級松本林吉母　松本タヲ
故步兵一等卒勳七等竹岡實太郎弟　竹岡筆一
故步兵一等卒勳八等功七級田中新太郎父　田中新兵衞
故步兵一等卒勳八等妹尾萬槌父　妹尾信藏
故步兵上等兵勳八等山下久松母　山下スヱ
故步兵軍曹勳七等功七級酒井信行母　酒井マツ
故步兵伍長勳七等功七級佐々木熊治郎父　佐々木清治郎
故步兵上等兵勳八等高橋玄賓父　高橋秦成
同　柳生鼎一父　柳生喜作
故步兵上等兵勳八等功七級熊谷長吉父　熊谷與八
故步兵上等兵勳七等功七級加藤德一郎父　加藤勝市
故步兵上等兵勳八等功七級門田喜一父　門田爲助
同　金築傳太郎母　金築クラ
故步兵一等卒勳八等清水佐作母　清水シユン
同　寺田茂祐父　寺田傳三郎
故步兵特務曹長勳六等功七級森永玄藏妻　森永イキ
故步兵一等卒勳八等功七級山田末吉父　山田千五郎
故步兵上等兵勳八等功七級井上庚三母　井上セキ
故步兵一等卒勳七等藤原鹿三郎父　藤原松五郎
故步兵二等卒勳八等松原重延母　松原モト
故步兵伍長勳七等功七級佐藤芳平女　佐藤勝代
故步兵二等卒勳八等須山太右衞門母　須山キヨ
故步兵上等兵勳七等國田常吉女　國田サワ

故步兵一等卒勳八等功七級角田松藏父　角田倉藏
故步兵特務曹長勳七等大谷榮三郎妻　大谷タキ
故步兵一等卒勳八等狩野嘉十父　狩野源左衞門
同　日高卯市母　日高ラク
故步兵伍長勳七等功七級吉岡瀧市妻　吉岡ハツ
故步兵一等卒勳八等三武士和四郎父　三武士關右衞門
故步兵二等卒勳八等藤原榮之助妻　藤原キシ
同　上野萬之助妻　上野ヤヱ
同　山田兼市父　山田長太
同　須山乙藏父　須山重左衞門
故步兵一等卒勳八等洗川伊之助父　洗川秀吉
同　德永正一父　德永音吉
故步兵上等兵勳八等功七級松本誠一妻　松本ミツ
故步兵伍長勳八等功七級日高乙五郎母　日高コウ
同　勝部仁一郎父　勝部茂平
故步兵上等兵勳七等功七級宮村鶴治妻　宮村ヨシ
故步兵一等卒勳八等渡邊政治妻　渡邊ミヨ
故步兵伍長勳八等池田松太郎父　池田兵太郎
故步兵軍曹勳七等功七級井上彌太郎妻　井上シマ
故步兵一等卒勳八等山野好松女　山野コハマ
同　井谷梅太郎父　井谷長次郎
同　上田般太父　上田國藏
故步兵上等兵勳八等谷口源太郎父　谷口佐藏
故步兵上等兵勳七等須澤文四郎兄　須澤嘉九郎
故步兵二等卒勳八等松本峰三郎母　松本トラ
故步兵軍曹勳七等功七級佐々木武右衞門父　佐々木角平
故步兵一等卒勳八等大塚莨一父　大塚梅吉



第7336号　叙任及辞令



第 7336 号　叙任及辞令

故歩兵一等卒河野直市女
河野千代子
故歩兵二等卒大場繁太郎男代六
大場
故歩兵一等卒渡津仁吉妻渡津セサヨ
故歩兵二等卒柏原義樹母柏原サト
同
安井鉦之助父
安井證次郎
同
小村才女登米
小村才登米
同
藤田助二郎妻藤田トク
故歩兵一等卒和田長右衛門父和田岩治
故歩兵二等卒和田豫一郎父和田藏太郎
同
田原勘左衛門兄田原彌吉
菅原彦太郎父定太
同
多久和徹宗父多久和徹覺
同
木谷一雄父木谷大雲
同
松尾繁彦母松尾マサ
同
中野市第一中野作市妻秀一
同
板倉運三郎妻板倉シカ
同
安井壽市父安井熊太郎
同
原田英造父原田十三郎
同
大庭孫次郎父大庭喜代太
同
山崎秀三郎父山崎松太郎
同
筒井嘉太郎父筒井唯市
同
故歩兵軍曹勳七等功七級松本豐熊妻松本ヨネ
故歩兵上等兵勳八等功七級安田金之助母安田セト
故歩兵上等兵勳七等功七級諸谷折太郎妻諸谷アサノ
同
東大吉母ウメ
故歩兵一等卒勳八等功七級月森勘四郎弟月森房松

故歩兵一等卒勳七等益田岡太郎父
益田民三郎
故歩兵上等兵勳七等功七級三上作市妻三上イマヨ
故歩兵一等卒勳八等桑谷八郎妻桑谷マキ
同
吉田金重父吉田米太郎
故歩兵一等卒勳七等濱井仁太郎父濱井千代吉
故歩兵特務曹長勳七等功七級北山國夫妻北山ケイ
故歩兵上等兵靜間寅吉女靜間フサノ
故歩兵一等卒勳八等楫取之助母楫取セキ
同
藤原徠次郎妻藤原ミイ
故歩兵一等卒勳七等石原瀧藏妻石原ユキ
故歩兵一等卒勳八等土肥八二郎男土肥喜八
同
坂太榮次女坂本マキ
故歩兵一等卒勳七等功七級内田善市父内田亀市
故歩兵一等卒勳八等馬庭壽三郎妻馬庭クニ
同
木下善男木下正義
故歩兵一等卒勳八等功七級大屋重吉父大屋善市
故歩兵上等兵勳八等功七級大房庄太郎父大房卯一郎
同
故歩兵一等卒勳七等日前勘市父日前伊之助
故歩兵一等卒勳八等井戸周太郎父井戸源太郎
同
橋本里治女橋本キタ
故歩兵一等卒勳七等佐佐木勝太郎母佐佐木ハツ
同
故歩兵一等卒勳八等田中市太郎父田中宮太郎
故歩兵一等卒勳七等功七級加藤喜代太郎母加藤ステ
故歩兵一等卒勳八等長谷川秀五郎男長谷川梅次郎
故歩兵上等兵勳七等功七級眞井東一郎妻眞井アヤノ

故歩兵一等卒勳八等功七級藤原亀市弟
藤原近六郎
故歩兵少佐正六位勳四等功四級西山盛壽男
西山
故歩兵中尉從七位勳六等功五級高畑成三郎父
高畑鴨次郎
故歩兵特務曹長勳六等功七級平野幾右衛門妻平野幾右衛門
故歩兵軍曹勳七等功七級田村直太郎妻田村マツ
故歩兵伍長勳八等功七級上田和市父上田岩吉
故歩兵上等兵勳八等功七級島總一母島リノ
同
細川熊一父細川熊一郎
故歩兵上等兵勳七等功七級高野勝市父高野卯一郎
故歩兵軍曹勳七等功七級足立恒文妻足立セン
故歩兵一等卒勳七等功七級石橋今太郎妻石橋イチ
故歩兵上等兵勳七等田部富藏妻田部タミヨ
故歩兵一等卒勳七等河崎豐太父河崎吉平
故歩兵一等卒勳八等永瀧眞市父永瀧彌市
故歩兵上等兵勳八等岡田總太郎男岡田益吉
故歩兵一等卒勳八等高野由之助女高野美代
故輜重輸卒勳八等川口國市男川口初市
故歩兵一等卒勳八等三上佳一郎妻三上クヱ
故歩兵上等兵勳八等渡部權市兄渡部彦太郎
故歩兵一等卒勳八等黒水忠作妻黒水サク
故歩兵二等卒大橋健一父大橋健造
故歩兵一等卒勳七等大庭長治女大庭トヨ
故歩兵一等卒勳八等中島利喜太郎父中島伊三郎
同
故歩兵一等卒勳七等井上卯市妻塩瀬藤四郎
井上コセサ
故歩兵一等卒勳八等曾田新次郎妻曾田フネ

故歩兵上等兵勳七等中島勝太郎妻中島カツ
故歩兵一等卒勳八等桑山佐市父桑山吉左衛門
故歩兵一等卒勳七等津原勝太郎妻津原タイ
神原太郎母
故歩兵二等卒下倉小太郎母下倉ヤエ
同
田盛橘次郎父田盛捨五郎
同
金森嘉太郎兄金森福太郎
故歩兵上等兵勳七等荒田勘五郎父荒田總平
故歩兵二等卒中本仙藏母中本カネ
故歩兵一等卒勳八等桑重平代孫妻桑重リヱ
同
落合熊藏男落合安太郎
同
湯原要藏兄湯原長三郎
故歩兵一等卒勳七等井田林之助妻井田モン
故歩兵大尉正六位勳四等功五級森田嶺彦女森田秀子
故歩兵上等兵勳八等足立粂太郎妻足立セト
故歩兵一等卒勳八等石井粂吉弟石井爲吉
同
桑浦二郎女桑浦マサヨ
同
早田恒市妻早田ハツ
同
故歩兵一等卒勳七等功七級藤若直太郎妻藤若ウメノ
故歩兵一等卒勳七等別所清藏兄別所熊七
故歩兵一等卒勳八等三口七郎兵衛父三口鍬次
故歩兵一等卒勳七等榛吉三治女榛サメ
故歩兵一等卒勳八等島田眞市男島田定造
故看護手山藤梅吉父山藤保次
故歩兵二等卒佐々木彦太郎父佐々木市藏

明治三十七八年從軍記章條例ニ依リ陸軍大臣ノ奏請ヲ經テ明治三十九年三月三十日勅定ノ從軍記章ヲ交付シ以テ之ヲ保存セシム（三十九年四月一日官報局）

許可 7336号